

## 陳 述 書

### 1. 人物について

#### 1.1. 私（照屋優海）

被控訴人 T

昭和 62 年 1 月生まれ、29 歳（平成 22 年 10 月 T 再入社時 23 歳）。未婚。

沖縄県出身。北九州市立大学文学部比較文化学科卒業。平成 22 年 4 月、被控訴会社 L  
（以下「L 社」といいます。）へ新卒入社。

#### ・新社会人

他社との比較対象がなく「IT の会社とは（社会人とは）（営業とは）こういうものだ」と言われると違和感を感じつつも納得せざるを得ない状況でした。

#### ・非技術者採用

非技術者にも関わらず IT 企業に採用され営業配属となりました。非技術者の技術研修はなく、社内会議内容が全く理解できなかったため、土日祝祭日も自主学習に必死でした。

そもそも私の採用理由は英語コミュニケーション力でした。社長直筆で内定通知書に書かれた「海外展開を一緒にやってみましょう」という言葉に魅力を感じ入社を決意しましたが、営業で英語が活かしたのは 1 度（他部署の緊急通訳）だけでした。

#### ・入社直後からの過重労働

営業での数字資料理解、というシステムの技術理解、SWAT と称される新人業務、人事評価制度記入等の会社雑務など日々のタスクは山積みでした。労働基準時間を超えた深夜残業が多く、会社自体がその状況に慣れすぎていて、誰も不思議に思わない雰囲気がありました。新入社員で入社したこともあり、その異常性に気が付きませんでした。慣れるしかない状況でした。

#### 1.2. 被控訴人 T

昭和 年 月生まれ。42 歳（平成 22 年 10 月の再入社時 36 歳）。既婚、子ども 3 人。

出身。大学 工学科卒業。 に 4 年間勤務。2000 年沖縄に移住、創業直後の L 社 に転職。

平成 12 年 4 月、L 社 へ入社（平成 13 年から の設計・開発・テスト・営業、平成 16 年からは技術統括部マネージャー）。平成 21 年 3 月に自主退職。

平成 22 年 10 月、**L 社** へ再入社。平成 23 年 8 月にセクハラ・レイプが原因で自主退職。

#### ・平成 22 年再入社時の嚴重注意

**被控訴人 T** (以下「**T**」といいます。) は、平成 21 年頃に **L 社** 女性社員に対してセクハラを行ったことや、**T** が **L 社** に在籍していた当時の東京出張時において、電車内での「痴漢行為」を行ったことがあったため、**L 社** 役員及び人事責任者である **A 氏** (以下「**A**」といいます。) から **T** に対して、「素行に十分に注意・配慮を行う」よう口頭での嚴重注意を受けていたとのことでした。当然一般社員にはそのような事実は隠されており、私はレイプ後の平成 23 年 6 月末にレキサス役員である **O 氏** (以下「**O**」といいます。) と人事部の **■** (旧姓 **■**) **M 氏** (以下「**M**」といいます。) から知らされました。

#### 1.3 **■** (旧姓 **■**) **被控訴人 M**

昭和 **■** 年 **■** 月生まれ。38 歳 (平成 23 年 1 月の入社時 32 歳)。既婚、子ども 1 人。

**■** 県出身。**■** 大学法学部卒業。

2001 年 4 月から 2004 年 5 月まで、株式会社 **■**

**■** 勤務。採用・教育・評価に関する人材コンサルティングを経験。

2004 年 9 月から 2010 年 3 月まで、**■** 株式会社において勤務。人事としての社内採用・教育を 6 年間担当し、労働組合の執行委員を兼務。

2010 年 4 月から 2010 年 12 月まで、**■** 株式会社に勤務。

2011 年 1 月 4 日 **L 社** 入社。現在、人事部 (人材育成業務・人事労務) リーダー。

## 2. 状況と経緯説明 (時系列)

### 2.1. 平成 22 年 4 月 1 日入社

私は、平成 22 年 4 月 1 日、**L 社** へ新卒で入社し、4 月 10 日にビジネスデザイン部モバイルソリューションチームへ現場配属されました。

私は、大学において比較文化を専攻しており、IT についてはこれまで学んだことがなかったため、入社当時から日々の業務をこなすことだけでも精一杯という状況でした。入社前の就職説明で聞かされていた「社外で技術研修を行う。他社の新入社員と一緒に、非技術者も、1 ヶ月ほどインターネットの基礎を理解する研修を受ける」といっ

たような技術指導も、平成 22 年入社の新入社員には用意されておらず<sup>1</sup>基本的とされる技術用語が理解できない自分に不安を覚えました。

これに加え、**L社**においては、「SWAT」と呼ばれる入社 3 年目までの新人に与えられる業務をはじめ、「チャレンジシート」と呼ばれる、業務に関する目標の設定及び「OJT チェックシート」、「360° 評価シート」と呼ばれる人事評価に関する書類の作成業務等の様々な業務が入社日から課されていました。そのため、私は、入社当時から、長時間残業しなければなりませんでした。

**L社**における勤務時間は、午前 9 時 30 分から午後 6 時 30 分までとされていますが、SWAT 業務の開始は午前 8 時 30 分からとされていたため、私は、毎朝午前 8 時 30 分までには出社し、社内の清掃、社員へのメール配信、弁当の準備、ミーティング等の業務を行っていました。それ以外にも、SWAT 業務には、来客対応、電話対応、買い出し等の雑用、**L社** ブログの更新、お昼時間や終業後に行われる定例のミーティングへの参加等、本来の業務以外のタスクが含まれていました。そのため、私は、就業時間中に本来の業務を片付けることができるような状況にはなく、毎日、深夜 2 時頃から、ひどいときには 3 時頃まで残業するという生活をしていました。

同期入社エンジニアは 4 月 1 日の入社日の前からプロジェクトメンバーに入れられており、家に帰れない忙しさで朝方まで働き、会社の駐車場で仮眠をし、近くの UNIQLO で買った新しい服を着て出社する生活を繰り返していたと聞きました。それが会社の即戦力として立派に働いたと評価され、「伝説のスーパーエンジニア新入社員だ」と言われていました。**L社**においては、過重労働（会社のために尽くすこと、努力し汗を流すこと）は美德として語られていました。先輩社員は、「朝方まで残業しても、日報には定時退社と書いている。努力を評価する会社なので労働時間なんて気にしていない。実力が評価され、努力はいずれ報われる」と言っていました。

私も、このような社風の中で入社当時から、平均して約 18 時間業務にあたっており、慢性的な疲労や睡眠不足の状態にありました。

## 2.2. 平成 22 年 7 月～8 月

私の指導係であった **Y氏**（以下「**Y**」といいます。）が私と一緒に担当していたモバイルソリューションチームを離れ、iDC ソリューションチーム（勤務地：宜野座）も担当することになりました。

---

<sup>1</sup> 平成 20 年、平成 21 年は纏まった技術研修があったと後になって **Y**（平成 20 年 4 月入社）と **K**（平成 21 年 4 月入社）から聞いた。2 人とも非技術者。

そのため、Y は、宜野座へ出勤することが増え、私の指導係は実質的に不存在となりました。平成 22 年 7 月に行われた指導係面談の際、私は、Y に対して、指導係がないことによる不安と業務に支障が出ていることを伝えました。



深夜残業に対する N からのメッセージ、照屋座席からの写真：末尾添付図面 2  
(平成 22 年 07 月 08 日 深夜 0 時 14 分@うるま市 L社 本社 撮影者：照屋)

### 2.3. 平成 22 年 10 月 1 日 T が営業担当として再入社

再入社した T の座席は、私の 2 つ隣の席に配置されました。このころは、業務の関わりも無かったため特に話すことはありませんでした。

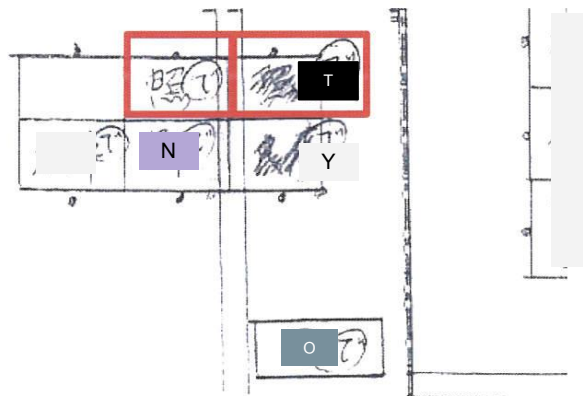


再入社直後の T 写真：末尾添付図面 2

(平成 22 年 10 月 18 日頃@うるま市 L 社 本社 撮影者： L 社 元社員 )<sup>2</sup>

#### 2.4. 平成 22 年 10 月 16 日 (土) オフィス A 棟から B 棟への引っ越し

○ の指示により、 T が私の席の隣になりました。私の指導係がないことを考慮し、「何か分からなかったら T に聞くように」とのことでした。

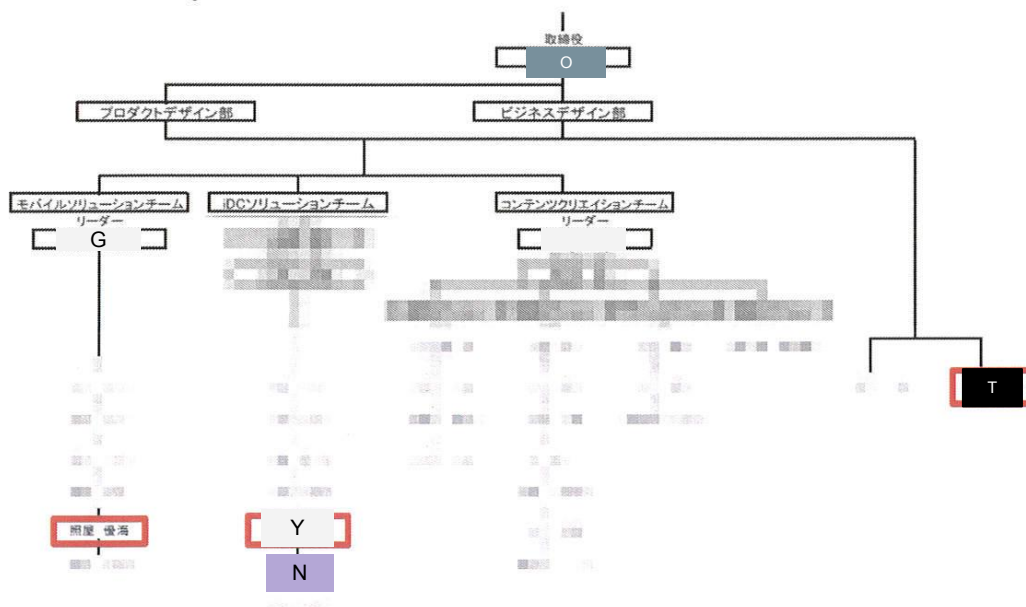


平成 23 年 10 月 16 日 引越し時の座席表 (作成者：人事部 )  
末尾添付図面 3-1

<sup>2</sup> L 社 ブログ『「 L 社 の引っ越し番長」の引っ越し日記』を参照 (執筆者： )  
(<http://blog. .co.jp/7127.html>)

## 2.5. 平成 22 年 10 月 21 日 (木)

指導係であった Y が iDC ソリューションチームに正式配属され私は営業として孤立してしまいました。



(20101021\_ L社 緊急連絡網 2010. 10. 21. pdf 参照)

## 2.6. 平成 22 年 10 月 22 日 (金) 全社員ミーティング前日@本社座席

私が翌日の資料を深夜までかかって作成していたところ、T が「以前 の営業をしていた。導入事例にある H さんとは営業に行った。」などと私に話しかけてきて、営業数字の読み方についてアドバイスをしてもらったことがありました。その後 T は、「Skype で色々教えてあげる。何か分からなかったら Skype しな。」ということで、私は T と Skype ID を交換しました。このころから T との Skype 会話がスタートしたのでした。

私は、なぜ T が一度レキサスを退社し、その後戻ってきたのか疑問に思い、質問しました。T は、「35 歳になったら独立したいとずっと言っていた。技術統括部マネージャーという地位もあったが、35 歳になって有言実行で独立したものの、やはり難しさを感じた。H さんに戻ってこないかと言われたので、また一緒にやらせてもらうことになった。」と説明していました。

## 2.7. 平成 22 年 10 月 23 日（土）全社員ミーティング@大会議室

A が休憩時間に私の席隣に腰掛け、「業務過多や知識不足の状況は理解している。実質的 OJT として T が担当になっても問題ないか？」と、私に聞いてきました。私は、前日の技術説明が理解しやすかったことや、T の過去を知らなかったため、「問題ない」と答えました。

その後、A より、10 月から 12 月までの実質的な指導係は T が務めるよう指示がありました。

## 2.8. 平成 22 年 10 月 25 日（月）～10 月 27 日（水） 東京出張

T・D（技術者）・私の 3 人で東京出張へ行きました。

D は、恵比寿にある L 社 宿舎を利用し、T は東京にある実家に泊まるとのことでした。私はビジネスホテルに宿泊する予定でした。25 日だったか 26 日だったかはっきりは覚えていませんが、客先訪問後に会食があり、解散したのは 22:00 頃でした。

私は、T から、帰り道の途中に私が宿泊するホテルがあるからホテル前まで送っていくといわれ、二人でタクシーに乗ることになりました。

T 「少しデザート食べに寄り道する？」

私 「いえ、早く帰って忘れないうちに今日の出張報告をまとめないと。

早く沖縄にいる G さん（リーダー）に報告しないといけないので。」

T 「そうだよな、また今度だな。」

一旦会話は終わったのですが、タクシーがホテル前に着くと、T から「出張報告書書くの一緒に手伝ってあげようか？部屋に上げてくれない？」と言われました。私は、「ロビーがあるのに私の部屋？」と思い、下心が見えた気がして一瞬気持ち悪いと思いましたが、きっと私の勘違いで自意識過剰（妻子もいるしそんな筈はない）だと考え直しました。

私 「出張報告は自分で書けるので大丈夫です。

下書き後に念のため確認お願いしていいですか？」

T 「だな、了解。俺は仕事上相棒のような関係になりたい。早く色々理解してほしいのでしっかり指導したいと思っている。分からないことがあれば遠慮なくいつでも聞いて。」

私 「ありがとうございます。では！おやすみなさい、また明日。」

という会話をした後に解散しました。少し不愉快で居心地が悪く変な人だと思いましたが、特に深く気にしませんでした。

## 2.9. 平成 22 年 11 月 1 日～11 月 29 日 深夜残業時のセクハラ発言

定時以降の残業は、相変わらず日常的なものでした。

■T は、このころから下ネタ好きが自分の個性（■T スイッチオン）だと言って性的な冗談を言うようになりました。

- ・「その服だとグラマーに見えるね。」
- ・「エクセルをマージすることをがっちゃんこと言うけど、合体っていうとエロいよね。」
- ・「『大人の』という単語をつけるとビジネス用語は何でもエロくなる。大人の BtoB、大人のペンディング、大人のローンチとか。」
- ・「好きな人はいるの？」

など、私としては、個人的な質問や性的な質問が業務に無関係で意味のないことに思えて不愉快でした。

私が、「これ習う意味ありますか？笑」と冗談っぽく伝えると、■T から、下ネタと社会人教育の関連性について熱弁されたことがありました。「『下ネタ』を含め『雑談』は人間関係を円滑にする潤滑油で職場に必要なもの。『雑談力』は営業に重要で、雑談から仕事に繋がるケースが殆どだ。」という、自らを正当化した教育論の説明を受けたのを覚えています。

私は、これをセクハラだと騒ぐのは悪なのだと思います。「冗談も通じない」と営業部から外されるかもしれないと思ったら、①笑って誤魔化す、②知らないふりをして流す、③与えられた情報の逆を支持することで否定する、が新入社員の私にできる限られた対処法でした。

## 2.10. 平成 22 年 11 月 24 日（水）22:29（Gmail）カラオケの誘い

私は、その日も ■T の隣の席で残業していました。「雑談が業務に不可欠」という ■T ■T 独自の指導理論のもと、業務会話から脱線を繰り返しながら Google カレンダーの使い方を教えてもらいました。

■T 「イベント招待方法を教えるのに必要だから Google のアドレス教えて。例えば俺が 26 日金曜日から 27 日土曜日にかけて照屋さんをカラオケに誘うなら…」  
といいながら、■T は、カラオケをサンプルイベントとして設定しました。そして、当日 26 日金曜日 21 時過ぎに、

■T 「どう？これからカラオケ行けそう？」

私 「え！社交辞令じゃなかったんですか！？笑」

■T 「もし行けるなら俺の十八番を聞かせてあげようと思ったんだけど」

私 「無理です。まだまだ終わりそうにないですし…」



■ T 「そうだよな、また今度だな。無理するなよ。じゃあ俺お先」

私 「はい、お疲れ様です」

私は、そのとき業務を理由にして誘いを断りましたが、私としては、プライベートの時間に2人きりで何処かに行くなど考えられませんでした。

## 2.11. 平成22年11月30日（火）Skypeでのセクハラ開始

■ T は、私に対して、業務に必要な会話や情報を織り交ぜながら、「雑談教育」として、あからさまな性的表現を行っていました。

私は、雑談を笑うことができず、「コミュニケーション能力欠如」と判断されると、営業としての適正が疑われるのではないかと恐れていました。

数秒、数分、数日であれば聞き流せたかもしれませんが、回数や頻度、Skypeでの拘束時間がみるみる増えていき、私は、■ T のセクハラ発言にもものすごいストレスを感じていました。■ T によるセクハラ発言に耐えていることは、自分自身が消費されていく感覚でした。少しずつ個人としての尊厳が踏みにじられ、私個人の領域が侵されるようで、自分自身が無くなっていく気がしました。

私には、目の前（■ T とは隣の座席）で反応を見続けられながら、意味を考える間も無く、読んだ瞬間にモニターの文字に返事をしないと、という焦りがありました。言葉通り■ T 監視下でのSkypeでした。セクハラ発言後■ T は、顔の角度を変え私のリアクションを目視していました。直接話をせず、Skypeを使って会話する理由について、■ T ■ は、「オフィスが静かで、俺の大きい声で話す则他の人の業務に迷惑がかかる」と説明していました。しかし、私としては、一度Skypeでの会話に捕まってしまうと■ T を止めることは困難でした。そこで、長くなりそうだと口頭で返事をするようにしました。（私はSkypeでも口頭でも態度も言動も変わらないため、後ろめたさはない。私から業務に関係のない話をして長時間Skypeを続けた事はないし、私から性的表現が含まれる会話をした事も一切ない。）。

私は、繰り返し、別の話題に流すよう気を使い心がけ、「私は性的対象となる人間ではない」と伝える努力をし、業務上必要な人間関係が悪くならないよう努めていました。■ L社 ■ では、指導係が作成する評価書も人事評価の一要素となっていたため、■ T ■ を拒絶する方法にも気を配らなければなりませんでした。毎日が昇給査定面接気分で狂气的ストレスを感じていました。

■ T は、「ハウレンソウ（報告・連絡・相談）」をきちんとしましょう」という項目を使い、Skypeを見ていないと「ずっとSkypeしてるんだけど見て。すぐ返信するのは社会人の基本。もし緊急対応が必要な案件だったらどうするの。」と、私に注意したこともありました。

私は、**T**の事を誰かに話さないと思うようになりました。でも誰なら辛さを理解してくれるだろうか。相談したのに真剣に受け止めてもらえず、「照屋の問題解決能力が不足している」、「くだらないことをグチる」、「ポジティブじゃない」など社内評価が下がる可能性が強いと思いました。なぜなら、**L社**の人事評価は、上司と上司が選出した社員5名が行うことになっていたことや（被評価者には評価者がわからない）、「ストレスや緊張に強い」ことや、「ネガティブな発言をしない」等の人事評価事項が設けられており、会社内部の人たちに悩みを打ち明けにくい環境が創られていたからでした。

私の知識量に対して許容超えの業務量、業務外の義務活動等による忙しさにより、具体的対策を考える間も無く、私は、とりあえず笑ってごまかし続けました。**T**牽制の意味も込め、「これセクハラじゃないんですか？どこからがセクハラですか？」と聞いた事がありました。**T**からは、「セクハラと思った時にセクハラになる。照屋さんはこの程度大丈夫だよな。」と言われました。私は、**T**から受けているセクハラについて、相談する人を間違えると確実にキャリアが壊れる、慎重に動かなくてほと思いました。

私は、多忙な業務やSWAT等でプライベートな時間を犠牲にしていたため、状況を相談できる相手はいませんでした。セクハラの実態が分からず、ネットで調べたものの大企業や古い会社の場合が多く、中規模のITベンチャーの事例が探せず、執拗なSkypeに対する対策は見つかりませんでした。私は、解決の方法として、「Skypeセクハラは全て冗談で、ただの下ネタ。嫌がらせの意図があるわけではなく、ただ笑いを取り、会話をスムーズにしようとしているだけ。大丈夫、悪い人ではない。」と設定することにより、自分の気持ちを落ち着かせようと思いました。このようにして恐怖を取り除かなくては、業務に支障が出ると思いました。悪意や下心が客観的に判断できなくては、私の人格が疑われ、会社の人たちから信じてもらえない気もしていました。このころの私には、**T**のセクハラ発言について、誰かに相談できる状況にはなく、自分を殺し耐えるしかありませんでした。

## 2.12. 平成22年12月2日（木）帰宅中の交通事故（居眠り運転）

締め日と月次資料作成に追われていた月末と月初は特に労働時間が増えました。私は、朝方3時頃まで会社で働き、一時間半かけて一旦帰宅し、シャワーと着替えをして、また1時間かけて会社に戻り2時間ほどデスクで仮眠して、8:30からSWATの朝掃

除を行い、9:30に始業開始という生活を日常的に送っていました。SWATの取り決めにより、忙しさを愚痴することは禁じられていました。<sup>3</sup>

私は、慢性的な睡眠時間の不足から、帰宅途中に居眠り運転で交通事故を起こしてしまいました。

同僚である Nさん（以下「N」といいます。）に話したら、Nから「自分も2ヶ月ぐらい前に事故った。深夜帰宅途中の居眠り運転。」という話を聞きました。Yには、「あほじゃね。運転下手なんじゃないの？俺は事故ったことない。」と笑われました。危なくなったら止まって仮眠するとか、運転気をつけないとねという結論で終わり、自分の環境が異常だとは気づきませんでした。



居眠り運転での交通事故直後の写真

(平成22年12月2日@58号線 宜野湾市大謝名<sup>4</sup> 撮影者：照屋)

## 2.13. 平成23年1月13日（木）産業医面談 @社内会議室

仕事始め直後の1月5日、深夜緊急対応があり（1月6日AM2:50まで残業）、睡眠不足が続いていました。

朝会で産業医の診察が受けられるので体調について気軽に相談して欲しい、とアナウンスがあったので頭痛や耳鳴り、倦怠感などについて相談しました。

産業医からは、「具体的な相談内容はプライバシー保護のため人事には公表しない」と説明されていましたが、医師がどこまでを「会社に関与し把握すべき事実」と判断

<sup>3</sup> SWAT評価11番：SWATはポジティブ人間。ねたみ、ひがみ、愚痴などネガティブな発信はしない。

<sup>4</sup> 宜野湾市大謝名5-17-1 花ユキ フローリスト前

し、会社に開示するのかという会社組織との繋がりが心配で、産業医を信頼することはできませんでした。セクハラについても相談できる人ではない印象でした。私は、「体調不良がひどい」、「営業の仕事は好きだが仕事が多すぎる」、「業務に集中できない」という部分のみを産業医に対して話しました。仕事が多いという事実をたどれば、日常的に早くとも 23 時頃まで残業しなければならない業務が改善されるかと思いましたが、産業医面談後も業務量の変化はありませんでした。

#### 2.14. 平成 23 年 1 月 21 日 (金) A @新都心 zipang

私の採用担当の責任者だった A。社員のことを昔から知っているの、セクハラについて相談できるタイミングを伺っていて、時間を作ってもらっていました。しかし席についてすぐ彼が話し出したのは、

A 「仕事頑張るのもいいけどプライベートは順調？彼氏はいるの？」

「優海は見た目も悪くないんだから、いい人を見つけて結婚して子どもを産んで幸せな人生を送ってほしい。」

「俺は社内恋愛で今の奥さんを見つけた。L社 でいい人はいないの？」

「L社 で言うと誰がタイプ？これってセクハラじゃないよな？」

という内容でした。

私は、仕事を頑張りたいと思っていて、彼氏の心配なんてどうでもよかったし、それすら不快でした。しかし、A に悪意がある感じではなく、私に良かれと思い「コミュニケーションの一貫」として、私の彼氏の心配している様子でした。そのような相手に対して、T のセクハラを相談しても「T にも悪意がなくコミュニケーションの一貫ではないか」と一蹴されるだろうと思いました。

そして、A がかつて作成した会社ブログでの楽しそうな写真が頭をよぎってハッとしました。L社 に必要ないのは T ではなく、数字を作れない私の方だと思いました。A が T を支持するのは目に見えていたし、セクハラを相談するのは危険だと思いました。



平成 21 年（私の入社前）リーダー新年会で **A** の撮影した **T** 写真  
（平成 21 年 1 月 13 日頃 @ 撮影者：**A**）<sup>5</sup>

そこで、私は、部署異動の可能性を聞いてみました。

私 「私の適正が活かせるのは英語だと思う。12 月の MVP も自分の頑張りとは違うこと（緊急対応で他部署の通訳）で評価されて驚いた。私がしたいのは海外事業。人事部配属で **A** の担当<sup>6</sup>になれないか？」

**A** 「会社の規模にこの人事人数は既に多い。優海は社交的で人当たりがよく、気配りができるのが魅力だと思う。営業は自分自身を売り込む職業なので、優海の個性が一番活かせる場所。この人から買いたいと思わせることが一番重要で、技術的理解は後から付いてくる。継続すれば成績はついてくる。もっと IT 技術が追いつけばシリコンバレー勤務にして海外事業を開拓する担当にもできるし、それだけの営業としての実力はすぐつくはずだ。営業として頑張れ。この会社は努力が認められるしきちんと評価する。若い時の苦労は買ってでもしろ。」

と言われてしまいました。

社内に営業以外の私の居場所はなく、営業で成績を出し実力を付ければ、**T** の目の前から離れることができる、**T** から離れるために頑張らなくてはいませんでした。

## 2. 15. 平成 23 年 1 月 26 日～29 日

1 月に入ってから正式に **T** が指導係となったこともあり、**T** のパワーコントロールが徐々に始まっていきました。

<sup>5</sup> 平成 21 年 1 月 13 日（火）**L社** ブログ『リーダー新年会開催！』を参照（執筆者：**A**）  
（<http://blog. .co.jp/3143.html>）

<sup>6</sup> 当時会社として力を入れていた、唯一海外と関われるプロジェクト。現在は **A** と改名。

私の業務内容やスケジュールを完全に把握しているため、11月頃とは状況が変わり、業務が忙しいという理由で、**T**との連絡を断ることができない状況が作られていきました。

チームリーダーであった**G氏**（以下「**G**」といいます。）と、私及び技術者の合計3人で東京出張に行った期間中は、そのことが顕著に現れました。

**T**への電話連絡がないことを責めるメールや、数分おき（計約30分間）の電話着信が、私用携帯と社用携帯の両方合わせて20件ずつぐらい入っていました。私は、**T**の怒りに焦って、怖くて職場に戻りたくありませんでした。

本来、チームリーダーである**G**と同行しているため、業務遂行において**T**に連絡が必要な内容はありませんでした。しかし、まるで密に連絡をする義務があるかのような、長文でのメールやスカイプが深夜まで続き、業務とプライベートの区切りがなくなり、指導係としてのパワーハラメントが強まり（常に私のために自己犠牲して指導してあげているというスタンス）、私はますます精神的に参ってきて混乱しました。

## 2.16. 平成23年1月31日（月）12:30 ごろ渡部とランチ

1月から新しく人事に入社した**M**とランチに行きました。**M**は、30代前半で社会人経験がある東京からきたキャリアある女性。もしかすると、**T**のセクハラやパワハラ、出張時の異常なメールの件を話せるのではないかと期待していました。しかし、入社したばかりの彼女からは、「**L社**社員について教えて！」という話題が中心でした。私は、自分が入社直後会社に慣れるので大変だった4月5月6月の精神状態を考えると、わざわざ移住してきて新生活の希望でいっぱい彼女に、社内の込み入った事情を話すことはできませんでした。

この当時、セクハラ相談窓口は存在しておらず、相談担当者、相談フロー、その後の対応等が会社として明確になっていませんでした。人事部は「採用」、「人材育成（特に新人）」と「ITfogs」が主な業務内容だったので、人事部だから社内問題を解決してくれるという期待はありませんでした。

## 2.17. 平成23年2月10日 **K氏**に相談 @ **K** 宅

同い年で仲良くしていた社員の**K氏**（以下「**K**」といいます。）が、社内で公開されている私の日報の退社時間がいつも遅いのを心配し、彼女の家（会社から10分の距離）に宿泊させてもらいました。

**K**から、「業務忙しいの大丈夫？」と聞かれたとき、恐る恐る東京出張時の大量のメールとスカイプを見てもらいながら話しました。

**K** 「え、キモいんだけど…」

と言っていたので、自分の感覚は普通なんだと、とても安心したことを覚えています。  
私 「営業で頑張りたい。仕事ができるようになりたい。だけど深夜スカイプやこういうメールが邪魔で集中できない」

と話しましたが、彼女も当時 24 歳。私より 1 年社会人歴が長いだけで、大学卒業後の新卒採用で **L社** に入社し、**A** の下で「新卒採用担当」として学生の前で会社説明をしてきた社会人 2 年目。職場環境や社内問題など、**L社** 以外の会社と比較する材料がないのは同じで、私と同じくこういう場合の経験もなく、対処法はわからない様子でした。

**K** 「営業の業務内容や、部署の日常が想像できないから、どうすればいいのか自分も分からない。力になれなくてごめん。同じ営業部で先輩の **N** さんに相談してみたら何か良いアドバイスをくれるんじゃないか。」

とアドバイスをくれました。

どうか、誰か助けてほしい。しかし、彼女だって大変な状況にいる。重い話をするのが申し訳なく感じました。

## 2.18. 平成 23 年 2 月 14 日以降 帰宅時のつきまとい

この頃、私の頭痛や睡眠障害はひどくなっていました。**T** は、「急な体調不良や居眠運転で交通事故を起こすと大変」等といい、帰宅時に、私の車を自宅まで尾行するようになりました。

**T** は、会社から私と同時に出発し、私の家の前まで尾行した上で、到着すると電話をかけてきて、「じゃあ今日も無事に見届けたので。おやすみ、また明日」といって自宅へ帰っていきました。私は、実家住まいで本当に良かったと思いました。



当時写真。写真中央手前が T、その向かいに N がいる。私の座席は T の左。  
私の耳鳴りはコピー機の影響かもと T が言い座席交換後。末尾添付図面 3-1  
(平成 22 年 2 月末頃の深夜@うるま市 L 社 本社 撮影者：照屋)

2 月から 3 月にかけて、私も T も深夜まで残っている日がほとんどだったので、追走頻度はほぼ毎日でした。私は、尾行されている車内で、大音量の音楽を流しながら自分の精神を正常に保とうとするのですが、信号待ちなどでバックミラーを見ると、追走されている現実を思い出し、気持ちが悪くなり、信号待ち深夜の 58 号線で運転席のドアを開けて嘔吐したこともありました。

T は、私が深夜の電話に返信しなかったり、定時後 Skype をチェックしていないと、「心配で気が狂う」、「時間管理ができていない」、「ほうれんそうができていない<sup>7</sup>」、「昨日は何かあったの？誰といたの？」といい、その度に私は、自分への評価が下がるのではないかと恐れていました。

A にも、「体調不良は自己管理ができていない証拠、社会人失格」と頭ごなしに言われ、私は、社会人として失格になりたくないと恐れていました。G からは、「タスク管理ができていない」と言われました。尋常でない量の仕事を抱えた新入社員の私は、どれが正解かわからず、キャリアを持つ人から良く評価されることが正しいと思うしかありませんでした。私は、上司から「仕事ができない」と評価されたくないという

<sup>7</sup> 「就業規則の違反だ（第 48 条(ほう・れん・そうの義務)）」と言われた。違反した場合は、懲戒処分を行うことがあると記載されている。



思いでいっぱいでした。そのため、私は、給湯室やトイレで、同僚から「体調大丈夫？」と言われると、「私はまだ働ける、平気」と宣言していました。

私は、営業部から外されたり、会社に不必要だと思われたり、不都合な部署異動で私のキャリアが断たれ、海外事業が遠のくことだけは避けたいという思いで必死に業務を行っていました。今まで必死に頑張ってきたことが無駄になる気がしてどうにか避けたいと思っていました。■Tから離れ、自分の英語力を生かし海外事業で会社に貢献する望みを叶えたい、どうにかしたい、でもどうすればいいか分かりませんでした。

## 2.19. 平成 23 年 3 月中旬 来期営業の方針決定

来年度のチーム体制を大きく変えるということが決まりました。

予算組みが必要なので、営業担当には他社員より早く情報が入ってきました。営業は、これまで商材ごとにチームが分かれており、それぞれに「営業担当」がいたため、体制的な「営業部」はなかったのですが、4月からは営業部として統括されることになりました。今まで以上に営業担当同士の結束ができるようにとのことでした。また、競い合って数字目標を達成する構図にするという目的で、営業部をさらに2つに分け、数字を管理することになりました。リーダーを■OとするチームOと、■TをリーダーとするチームTに分けるとの発表がありました。私は、チームTに配属されました。田村が直属の上司となることが決定し、絶望的な気分でした。

私は、■Tにより業務内容や行動を全て把握されており、顧客とのやり取りメールも全てみられている状態でした。しかし、これまではチームリーダーの■Kの権限も残っていたため、病欠などの勤怠報告は■Kに報告し、神村から依頼された業務対応があると理由つけて、■TのSkype連絡（緊急業務対応以外）は聞き流すこともできたのですが、■Tがリーダーとなってしまうと、文字通り逃げ場が無くなってしまおう、もうこれ以上ここにいけない、限界だと感じました。

そのころ、私は、転職しようと決心し、すぐに転職サイトを見て入れそうな会社を必死に探しました。4月からの異動が決まっていたため、私には時間がありませんでした。私が転職サイトを見ていた時、運悪く、通りかかった■Oと■Yに、「おまえ求人サイトみてるの!？」と気づかれた事がありました。「ちょっと文書が気になってたまたま開いてただけです」などといって誤魔化しました。

■Aは、以前辞めていった他の社員について、「新人が会社を辞めるとかありえない。会社はそいつに投資し育成しているのに恩を仇で返すなんて。3年も会社にいなくせに良し悪しの何が分かるんだよ。新卒ブランドという考え方は嫌いだが、すぐ辞める忍耐のない新人に市場価値は無い。社会不適合者だ。」と酷評していたのを思い出し

た。私もそう言われるんだろうと思うと心苦しかったのですが、もう時間が無い、**T**から早く逃げないと…と焦っていました。

## 2.20. 平成 23 年 3 月 22 日 (火) **T**からのメール

その日私は、体調を崩して会社を休んでいました。

**T**の私用メールから、私の私用メール（パソコンと携帯両方）に「お休みと聞いたのでメールしました。特に問題ないのでゆっくり休んでください」と連絡がありました。リーダーの **K** に連絡しているので、業務フロー上問題はありませんでした。「特に問題ない」のに **T** から連絡が来た事に恐怖を感じました。気配りとして<sup>8</sup> **T** にも連絡すべきだったのか、配慮できなかった私を責めているのか、呪縛されたように集中できなくなりました。逃げ場がない、時間が無い、「どうしようどうしようどうしようどうしよう…」と繰り返していました。精神的に追い詰められていたのは自分でもわかっていました。

## 2.21. 平成 23 年 3 月 25 日 (金) AM1:30 頃 **T**・**N**と深夜カフェ

**T**は、普段からしつこく何度も食事に誘ってきました。業務を理由にして断り続けていましたが、この日は「今日は何時まででも待つ覚悟」と言われていました。**N**に Skype し、「**T**と 2 人は無理。一緒にお願います…」と頼んで、承諾してもらい、深夜 1 時半ごろからカフェに行き、家に帰ったのは午前 4 時ごろでした。

**T**からは、当初、バー&ラーメンのお店「ブエナパレハ」に 2 人で行こうと誘われていました。その店の徒歩 1 分先にはラブホテルがあり、今思えば、偶然、徒歩 1 分の距離にラブホテルがあったとは考えられません。「金曜日の夜」ということにも計画性を感じてしまいます。

## 2.22. 平成 23 年 3 月 29 日頃 追走終了

深夜帰宅時の尾行は、私にとって、とても大きな不安と恐怖になっていました。常に見られている意識が強くなり、後ろに **T** がいない時でもバックミラーを見ると **T** の車があるかのようなノイローゼ状態に陥っていました。通勤途中のファミリーマートに駐車し、落ち着いてから帰ることも多くなっていました。何があったのかわかりませんが、尾行は 3 月 29 日で終了しました。つきまとわれ、ストーキングされているとも解釈できたのですが、業務遂行をしているという **T** の主張のもと行われていたので拒否もできませんでした。

<sup>8</sup> SWAT 評価 7 番: ホスピタリティ(おもてなしの心)を誰に対しても、自然に表現できる。

## 2.23. 平成 23 年 3 月 31 日（木） 新会議室の完成

この日、工事をしていた会議室(会議室 1・2・3)が完成しました。これまでの会議室は、会議の声がメインオフィスに聞こえる場所だったのですが、新しくできた会議室は、声が届かないので、顧客対応など極秘会議も可能になるということでした。

■Tとのチャレンジシート面談等は、■Tが新会議室を予約していました。私は、「席が隣ですしわざわざ移動しなくてもいいと思います。」といましたが、「俺、声が大きいかからフロアにいる他の社員に迷惑だし。」と返されてしまいました。二人で密室に入るのは苦痛でした。全面壁ではなく一部ガラス張りなのが僅かな救いでした。



新しく完成した会議室：末尾添付図面 3-2

(平成 23 年 3 月 31 日頃@うるま市 ■L社 ■本社 撮影者： ■L社 ■元社員 ■ )<sup>9</sup>

## 2.24. 平成 23 年 4 月 1 日（金）新体制のスタート

チームTのメーリングリストが作成され、新体制が内内でスタートし、■Tのセクハラが急速にエスカレートしました。

深夜残業後に帰る時に

- ・「ごくろうさま」と肩を触わる
- ・「よく頑張っている」と言いながら頭をポンポンとし髪の毛に触れる

<sup>9</sup> ■L社 ■ブログ『”祝”新会議室完成』を参照（執筆者： ■ :  
(<http://blog. ■.co.jp/7943.html>)

- ・「新しいチーム、頑張って行こうな」と肩に手を掛ける
- ・「デスクワーク肩が凝っているんじゃない？マッサージしてあげる」と体を触られる。

このような身体的接触は、日常的に行われていました。「私肩こらないんで大丈夫です」など、都度触っている手を動かしていました。

営業予算会議、営業方針会議など、**T**含めたチームメンバー4人での会議に加え、前年度の私の人事評価についての面談や、今後の人事評価基準を決める面談など、4月以降、会議室で二人きりになる機会が一気に増えていきました。

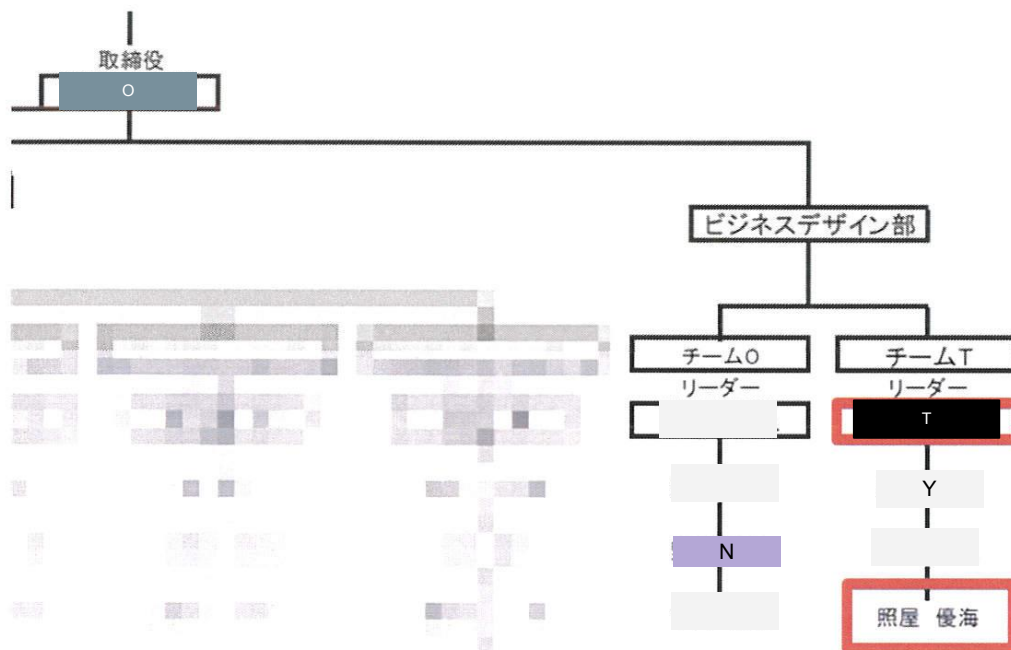
#### 2.25. 平成23年4月7日（木）**N**とランチ

私は、この日、**N**を誘いランチに行きました。**T**について困っている状況を説明し、どう思うか、どうしたらいいかを聞きました。**N**は当時25歳。私より1歳年上ではあるものの、まだ若く経験がないこともあり、私の話を聞いてはくれましたが、的確な返答はもらえず。私の扱いに困っていたようでした。

#### 2.26. 平成23年4月12日（火）みどり耳鼻咽喉科

耳鳴りが酷く我慢ができなくなったので、ついに耳鼻科に行きました。色々な検査をしたが、聴力に問題ないとのことで、耳鳴りの原因は精神的な問題も多いと教えてもらいました。

2.27. 平成 23 年 4 月 16 日（土）正式人事通達、席替え（末尾添付図面 3-3）



(20110415\_ L社 緊急連絡網 2011. 4. 15. pdf 参照)

正式にチーム T となった日以降、**T** からのセクハラは目に見える形で一層急激にエスカレートしていきました。

私の洋服や髪型について、エロい冗談を言われながら会議室で、壁際に追つめられたり、私より後から会議室に来て私の隣に座り、太ももに手を伸ばしてくるなど、昼夜問わず物理的な接触距離が急に近くなりました。

しかし、社内会議室は、近くに誰か人がいるという安心感があり、わずかな救いがありました。摺ガラスということも、精神的にはわずかに楽でした。また、会議が終わった瞬間、パソコンを持ってさっと席を立ったり、冗談めかしながら隣の席でなく向かいに座ったりと対策を都度考え、状況を少しずつすり抜けていました。一方で、精神は完全に疲労していました。

ビジネスシーンにおける、上司に対する「黙れうざいキモい触るな」という言い方が分かりませんでした。上司の要求を拒否すれば、私が不利益を受けるのはわかっていました。どうすればうまく逃げられるのか、見当もつきませんでした。

私は、セクハラについて話したくなかったのではなく、ここまで来るまでに、話すきっかけや機会も、相手も、探しました。社内中探し尽くしたけれど、窓口も、話す相手も見つけられませんでした。Google 先生は「情報」を持っているが、方向性を考えて

くれる解決者ではない。私の状況に対する、これだと思える具体的解決策が見つけれなかったし、寝る以外は会社にいる生活なので、社外の人にこの状況を相談しても、理解し解決してもらえと思えませんでした。

## 2.28. 平成 23 年 4 月 20 日（水）午後休で浦添総合病院（内科）へ

この日、私は、体を動かすことができず、会社に 2 時間遅刻しました。席についても息苦しく目眩、頭痛、耳鳴り、のどの乾きが酷く、急遽午後お休みをもらって浦添総合病院に行きました。受付で症状を伝えると、内科を勧められて受診しました。とりあえず痛み止めを処方され、このような症状は精神的なストレスから来る場合も多いと聞かされました。

## 2.29. 平成 23 年 4 月 21 日（木）同僚から心配メール

私は、ベッドで横になり続け、体を休めていましたが、体調が思うように良くなりえず、翌日も朝動けずに、病欠しました。体調不良を心配した同僚から一気に心配のメールが届きました。

繰り返しになりますが、会社という組織の中で、社内労務環境改善する部署はありませんでした。強いて言えば SWAT の使命は、「社内環境を良くする」だったのですが、少しだけ相談した K、N とともに社会経験が短く、お互いどうすればいいか分からずに解決にはなりません。また本来であれば、人事部が担当する業務なのですが、A は、自身がセクハラ、パワハラ、モラハラの先導を切っている存在であるために相談できませんでした。M は、1 月に入社したばかりで個人的付き合いはない上、当時の彼女の業務は、は助成金の申請書類作成や社外セミナー講師、平成 23 年度の新入社員育成対応などだったので、業務上の接点も皆無でした。

<sup>10</sup>その他の心配してくれる社員についても、セクハラという重い問題を相談できる人間関係が社内で築けておらず、誰を頼り、誰を信頼し、誰に相談し、どう解決すべきなのか判断できない状態でした。どうしたらいいのか苦しくてひとり泣きました。

## 2.30. 平成 23 年 4 月 22 日（金） 360 度人事評価、SWAT 評価、OJT チェックシートの提出期限

前日休んでしまった事もあり、大量のメールチェックに追われながらも、人事評価書類全部を急いで書き込み提出しました。

<sup>10</sup> 3 月全体 mtg 資料（HR2 月振り）...doc

直属上司が T になり、会議室で二人きりになる人事評価面談は憂鬱でしかなく、これから待ち受ける嫌な状況をどう切り抜けるかで頭がいっぱいでした。<sup>11</sup>また営業として満足いく動きができず実績を前年度であげられなかったことが、自分自身の中で許せず自尊心を失っていました。

## 2. 31. 平成 23 年 4 月 28 日（金）人事評価面談@北谷ハースカフェ

ハースカフェ セカンドフロア（沖縄県中頭郡北谷町北谷 1-12-11 2F）



Google ストリートビューより平成 23 年 11 月（夕方）の様子。

私は、オレンジ車の駐車位置に車を停めていた。

（撮影：2010 年 11 月 ©2016 Google）：末尾添付図面 4-2

ゴールデンウィーク前日。業務が遅くなったものの、翌週の OJT チェックシートの提出があるので面談が必要でした。

T からは、「評価もしないといけないし、いろいろ話したいこともあるし外でご飯食べながらにしよう。」と言われ、ご飯と一緒に行かないと評価を下げるという半ば命令口調でした。また社員が徐々に帰っていく社内よりは、人のいる場所が安全だと思い、夜でも空いている北谷のカフェに行く事にしました。それぞれの車を運転して出発し、午後 11 時頃、カフェに到着した。

T 「今日のご馳走するよ。アルコール入れたら話やすいんじゃない？  
美味しそうなのあるよ。」

<sup>11</sup> 人事評価の流れ「20100401 L社 の目指すべき職場環境.pdf」

4 月は前期の評価、今期の目標設定を行う、一年で一番人事評価が忙しい時期。

私 「北谷なので飲んだら帰れなくなりますし…」

■ 「北谷だしホテルはいっぱいある。代行って選択肢もあるし、帰り道送ってもいい。」

私 「車を改めて取りに来れないし、代行高い距離だし、明日予定あるので。」  
しつこくアルコールを飲む事など勧められましたが、断固として拒否しました。カフェの場所が北谷で本当に良かったと思いました。

業務や、仕事への取り組みに対する心意気、どうでもいい雑談などで閉店時間の翌午前2時になっていました。

私が、「ではまたゴールデンウイーク明けに。お疲れ様でした」と別れ、自分の車の運転席に座ると不用意に■が左後部座席に乗り込んできました。

■ 「もうちょっと話がしたいから一緒に後部座席に座って」

私 「私は運転するので運転席に座ります」

■ 「このままでは話ができない。話が終わるまで帰れない。」

私 「じゃあまた出社したときに話しましょう。」

■ 「OJT チェックシートの提出もあるし、どうしても今日話しておかないと。

早く帰りたいから、さっさとこっちに座って。」

と言われたのですが、私は、ずっと移動せず粘っていた。

■ 「肩マッサージしてあげる。次は俺がゆうみにマッサージされる番だからな。あら、髪伸びたんじゃない？」

と髪を触られたりしました。

自分の車なのにずっと居心地が悪く、会話の中から理由を見つけて、この状況を打破し、■を追い出さなくてはと精一杯に頭を使いました。10分以上このやりとりが続き、■を乗せたまま車を出すことができず、早く家に帰りたい一心でした。■が車から降りる様子はなく、私は、これに応じなければ状況は変えられない、家に帰れないと思いました。また、■は、OJT チェックシートという人事評価に関する話をするためと言っており、■の要求に従わなければならないという心理的な影響もありました。

その後、私は、後部座席に移動しましたが、危険も感じており、乗り込んだ時に右後部ドアは閉めずに軽く開けておきました。

私が後部座席につくと、すぐに■が私の膝に手を置きました。物理的な距離が近く、ビックリしたし嫌だったのですが、何も言えませんでした。また、そうすることで身体の触られている感覚に意識が行かないようになる効果も少しあったと思います。



■ T 「上司として良くない発言だが、一緒に残業していた3月はとても楽しかった。ゆうみが時間管理をもっとちゃんと出来るようになったら、さっさと仕事を終わらせられるようになったら、もっとこういう風に食事行けるようになる。」  
と言いながら、私に近づき肩に手を回してきました。

■ T 「俺はこういう風にバディ（相棒）と言えるような関係になっていきたい。体調を早く治してもらわないと困る。」

私 「私も本当仕事がちゃんと出来るようになりたいんですが。」  
とさりげなく私の肩にある■ Tの手を払い防御した。

■ T 「仕事ができるようになったら、いろいろ出来るようになるな。ご褒美は何が欲しい？胸に手を当てて考えてごらん。ほら。」

と、私の胸に■ Tが手を当てました。

私 「いやです、やめてください」

と■ Tの手を両手でどかしたが、■ Tは、拒否したことが楽しそうでニヤニヤしていました。

■ T 「俺、触ったら胸のサイズが分かる特技がある。両胸触らせて。動かさないから、触るだけ。ね、触るだけ。」

と両手で私の胸を触り、体ごと近づきドア側に押し倒そうとしてきました。

私は、その瞬間、後手でドアを押し開け、外に逃げ出ました。ドアを開けたまま、外から「■ Tさん、降りてください」と泣きながら叫びました。

■ T 「触る時間が短かったから何カップか分からなかった。何カップか言ってくれたら降る。」

私 「\*カップです、早く降りてください。（本当とは違うサイズ）」

■ T 「やっぱり。思った通り。」

と■ Tが後部左ドアから降りたのでした。

私は、とても怖かった。急いで運転席に座り、鍵ロックボタンを押しました。■ Tの車のエンジンがかかり、ライトが動き遠くなっていくのをバックミラーとサイドミラーで確認し、安心したら涙が止まらなくなりました。泣きすぎて泣き疲れ、そのまま寝てしまったようで、しばらくしてから目が覚めました。寒くてエンジンをかけて暖房を入れました。車を走らせていないからか、温風にならず風が冷たかったのですが、無いよりはましでした。自宅へ帰るエネルギーがなく、運転席を倒してもう少し寝て、少し明るくなり始めてから目が覚めたので、運転して帰宅しました。その日は、ぼーっとして何も考えられませんでした。

2.32. 平成 23 年 4 月 29 日（土） 20:22

■Tから私用メールアドレスに「昨日はありがとう」という嬉しそうなメールが届いていました。

私は、思考が停止してしまい、体が動きませんでした。

2.33. 平成 23 年 5 月 9 日（月）～平成 23 年 5 月 11 日（月）

出勤するのが辛く、頭がぼーっとして仕事に身が入らず、やるべき事が終わらず、夜遅くになってしまうという悪循環でした。私は、大学時代からずっと几帳面に手帳に書き込みスケジュール管理していたのですが、当時の手帳を見ると 4 月 28 日以降真っ白。ショックで精神的に機能していない状態だったのかもしれないと今になって思います。

2.34. 平成 23 年 5 月 11 日（水）面談（■T）@第二会議室

この日は、チャレンジシート面談をやろうと■Tに言われていた日でした。定時終わり頃から始めようという予定でしたが、緊急対応が入ったということで、「ごめん、もうちょっと待ってくれる？」と■Tに言われ、待つ事になりました。22 時頃、やっとな■Tの業務が終わり、会議室に移動しました。社内に残っていたのは、深夜更新作業がある■のみでした。

■Tは、「これまで一件も新規顧客獲得していない。実力が足りないが、俺も今後はリーダーになったし出来る限りサポートする。」「時間管理・案件管理ができていない、大丈夫なのかと社内のいろんな人から苦情が来ているが、俺は信用している。焦らないで頑張っていこう。」などと言い、私は、ドラマで見た DV のパターンに似ていると思いました。飴と鞭。業務関連の優しい言葉をかけながら、業務が出来ないように追い込むやり方に嫌悪感を持っているものの、どうすれば良いんだろう、何が正解なんだろうとぼーっと考えていると涙が出ました。

■Tは、「大丈夫、俺は見捨てないから。信用している。」と繰り返していた気がします。

私は、誰を信用してすればいいんだろう、誰を信用したら頭痛や吐き気、耳鳴りなどの体調不良、セクハラ、パワハラ、業務過多が解決されるのだろうと考えていました。しかし、何が原因で何をどうすればいいのか、頭が回らず、方向性を見失ってきていました。言葉数の少ない私に対し、■Tからは、今書いてあるシートを直して再提出という方針が示されました。私は、「とにかく頑張ります。」と言い、会議が終わりました。

私が、ノートパソコンを閉じ、印刷してきた紙資料やノートをまとめ席を立ち上がると、Tに後ろから抱きしめられる形で捕まってしまいました。私は、両手でパソコンや紙資料を抱きかかえていました。「すみません、もう帰るので」といって抜け出そうと思うのですが、何が起きているのか、頭が固まって身動きが取れませんでした。何かを耳元で囁かれ（パニックだった。思い出せない。）、首すじを舐められました。鳥肌がたちました。それに気づいたTが、「感じての？かわいい。」といました。私は、「え？何？何？ちょっと待って、何？なんで？やめてください！」と言いました。状況を理解することができず、逃げないと思うものの、恐怖で体が動きませんでした。

Tは、洋服の中に右手を入れて、直接胸をもみました。私は、「やめて…怖い怖い怖い…」と泣きそうになりながらいいましたが、Tは、「大丈夫、怖くない。力を抜いて。」といい、スカートの中に手を入れ、タイツとパンツの間に左手を入れてきました。Tは、恐怖で動けないでいる私にずっと何かを囁きながら、パンツ越しに膣内に指を入れました。危険信号が頭で鳴りました。私は、「Tさんやめてください。社内に栄さんがいます。（助けを呼びに叫びますよ）」と言いましたが、拒絶表明は無視され、Tは、「じゃあ口を封じないとだな」と胸を触っていた右手が口に入ってきて、舌を押さえました。パンツ越しだった左手が直接横から陰部を触ってきました。

ハッとした瞬間、木が軋んだような破裂音が鳴ったきがしました。風圧で会議室の気圧T変わったか、体重で壁が軋んだか分からないのですが、音で魔法が解けたように体が動くようになり、私は、顔を左に逸らして指をどかして歯と口を閉じ再度指が入らないようにし、下にしゃがむようにして全ての手を交わし、ドアを開け会議室から逃げ出しました。そのまま、走って女子トイレに駆け込みました。パソコンを抱えたまま個室に入り鍵をしめ、力が抜けて服のまま便座に座りました。

怖かったのと、何が起こったのかまだ分からずにパニック状態になり、自分自身が可哀想で私に申し訳なくて、その場で泣きました。心臓がドキドキして、悲しいけどどうしたらいいか分からない。ため息のような大きな深呼吸を何度もして落ち着いて、ウォシュレットで指が入った膣を洗いました。私は、しばらく個室から出られませんでした。動かないままだと自動消灯する電気システムなので、何度も電気が消えました。はじめは電気が消えると少し動き、センサーをONにして電気をつけていたのですが、それもやめ、真っ暗な個室に静かに深呼吸を続けていました。頭が回らなくて、暗闇で、何かを考えているというよりは、「吸って」、「吐いて」という息をすることに集中していました。数分前の出来事は、自分のことじゃないような、気分の悪い映画を見ていたような気がしていました。

トイレ側の廊下で、Tが「じゃあ俺先に帰るよ。お疲れ様。」と言って、玄関の自動ドアが開く音がしました。それでも、もうしばらくトイレに籠っていました。1人だ

けの小さな空間が、とても安全で心地よい場所に思えました。どれぐらい時間が経ったのか感覚はなく、ゆっくり個室から出て、パソコンを置いて口をゆすぎました。鏡に映った自分がひどい顔だったので、今度は凄く面白くなって声を出して笑って、また泣きました。

またしばらく経って、泣き止んで落ち着いて、T が待ち伏せしてないか左右確認しながらゆっくりとトイレのドア(自動ドア)から出ました。私は、荷物を纏めて、1人残っている T に「お先に失礼します。お疲れ様でした。」と挨拶をして帰りました。仕事ができないから私はこういう扱いになるのか？ どういうつもりなのか？ 状況が理解できずパニックで、悲しくて悔しくて気持ちが悪くて、怖くてどうしていいか分かりませんでした。

#### 2.35. 平成 23 年 5 月 12 日 (木) 産業医面談@第二会議室

翌日も何もなかったかのように通常通り振る舞う T を前に、私は放心状態でした。私は、以前に申し込み済みであった産業医との面談を行いました。藁にもすがる思いで、昨夜 T から受けた性的接触について相談したいと思っていたのですが、案内された部屋は、昨夜田村から逃げ出したのと同じ第二会議室で、T と同じ位置に先生が座っていたため、息苦しくなって呪縛にかかった様になり、T の問題は話すことはできませんでした。

#### 2.36. 産業医面談以降～平成 23 年 5 月 27 日 (金)

深夜残業後、会社のある 5 階フロアから T と二人でエレベーターに乗る時、私はボタン操作 (エレベータのドアに向かって右前) に立つ習慣がありました。

エレベーター内で後ろから T に何か話しかけられ、振り返ると顔がすぐ近くにあり、抱きつかれてキスを迫られたことが数回ありました。エレベーターだと、1 階まで数秒間で密室から脱出できるのが救いでした。

T が東京出張でオフィスにいないとき (5 月 17 日から 5 月 20 日までの間) が、唯一少し安心できるのですが、出張は一時的なもので何も解決していないと思うとつらい気持ちになりました。

#### 2.37. 平成 23 年 5 月 30 日頃 (月) 23 時頃@ L 社 駐車場付近、T の車

事実内容通知書には当時の私が 5 月中旬と書いている (当時は情景を思い出して気持ち悪くなるので日にちを特定できず、時間軸がバラバラになっていた) が、天候等の記憶情報を並べてみると 5 月 30 日頃の出来事だと思います。

私は、その日も夜遅くまで仕事が終わらず、23 時頃まで残業していました。オフィスに残っていたのは私と T だけで、戸締りをした記憶があります。当時の私にとってそれは日常でした。

その日 T は、オフィスを出て、エレベーターに乗った時は特に近づいてくることもありませんでした。私は、朝から体調がとても悪く、頭がふらふらしていました。

非常用階段の隣にある裏口からドアを開け駐車場に向かいました。朝の出勤時間ギリギリだったため、私の車の駐車場所は遠かった（駐車場は早い者順番で近くに停められた）のですが、T は「来客用駐車場」（ビル隣接）にズルをして車を置いていました。T は、「駐車場所まで送ってあげるから乗って、ヒールでしょ」と言いました。私は、T の車に乗ることをためらいましたが、体調不良で頭が回らず、車に乗らない言い訳が見つけれないまま、T の車に乗せてもらうことになりました。そして、ふらふらしながら助手席のドアを開けました。



当時の T の車「トヨタ カリブ」<sup>12</sup>。13 年乗っているとっていた。

先に運転席に乗り込んだ T は、パソコンを助手席に置いていました。私が助手席に乗り込もうとすると、「後ろに座って」と言いました。私は、助手席のドアを閉めて、左後部座席に座りました。運転席の真後ろにあたる右後部座席には、大きめのチャイルドシートが置いてありました。車の CD デッキ部分に子どもから T に宛てた手書きメッセージが書かれた白い小さな紙切れが貼られており、家庭が見える一面や、運転席と一番距離がある場所に座っているということから精神的に安心していました。

<sup>12</sup> クルマ・ポータルサイト Goonet より「トヨタ スプリンターカリブ 1995 年 8 月発売モデル」の写真  
([http://www.goo-net.com/car/TOYOTA/SPRINTER\\_CARIB.html](http://www.goo-net.com/car/TOYOTA/SPRINTER_CARIB.html))



平成 23 年 6 月の駐車場（昼）の様子。深夜、車がなくなると周りに人気がない。

末尾添付図面 1-2

私の車は建物から遠い砂利の駐車場の右端側にあり、車で行けば、20 秒程度で着く距離でした。しかし、**T** は、砂利の駐車場に入らず、私の車付近の車道部分で車を停めました。

私は、「ありがとうございました、お疲れ様でした」と言ってドアを開け外に出ようとしたのですが、ドアが開きませんでした。

「あー、チャイルドロックだ。ちょっと待って、開けるから」といい **T** が運転席を出て左後部座席に回ってドアを開けました。私は、「すいません、ありがとうございました」と足を車の外に踏み出し降りようとしたのですが、**T** が体で私を押し込みながら隣に乗り込んできました。

**T** の身長は 180cm ほどで大柄。左側のドアは **T** が塞いでいて、右側はチャイルドシートで外に出れない。「外に出ないと。私帰ります」と言って足元に置いたカバンを取ろうとしたのですが、**T** の足が邪魔をしていました。「チームワークを良くしないと。前にゆうみの車でしたみたいに少し話をしようよ（4 月 28 日北谷ハースカフェ駐車場での出来事）」といい、**T** が顔を近づけてきました。絶望的で屈辱的。私は、「いやだ、止めてください。」と言い **T** の体を退かすように力いっぱい押しました。しかし、業務多過と **T** のセクハラで精神的にも肉体的にも疲労困憊していた私には、頭が痛く **T** を退けるだけの十分な力はありませんでした。それと同時に、**T** の力の強さに恐怖を覚え、力が抜けていきました。



洲崎（特に今より未開発だった当時）は非常に暗く、外は真っ暗だった。

末尾添付図面 1-2

（平成 21 年 10 月 14 日頃@うるま市 **L社** 本社 撮影者：**L社** 社員）<sup>13</sup>

私は、服の上から胸を触られ、首元から手が入ってきて直に胸を触られ、着ていた服を胸まで下ろされ胸を舐められました。次に、太ももにあったもう一方の手が女性器をタイト越しに触ってきました。**T** は、私に全身でのしかかる体制をとっていたため、私は動けず、逃げられませんでした。**T** は、私に抱きつき、私の胸に顔を埋め、次に、私を持ち上げて**T** に向かい合って座る態勢にしました。

そのとき、ドアが近くなったので、ドアを開けようと再度試みましたが、やはり内側から開けられず逃げられませんでした。**T** が私の腰を掴んで前後に動かし、車体が揺れました。後部ガラスが曇って外の明かりが遠く、1度だけ車の光が右から左に走り流れていくのを見ましたが、叫んでも届かないし、そうすることで**T** がもっと暴力的になるかと思いました。

**T** が、「もう我慢できない。挿れるよ。優海もほしいんでしょ。」と言って、私のパンツを下ろそうとしましたが、私は、「生理です、やめて」と拒否しました。**T** は、私のパンツの中に手を入れて生理用品の触感を確かめ、私のパンツを下ろすのを諦

<sup>13</sup> **L社** ブログ『Birthday サプライズ!!』を参照（執筆者：**Y**）  
(<http://blog. .co.jp/4790.html>)

めたようでした。そのとき私は、外に出してもらえと思いました。しかし T は、「でももう大きくなっちゃった。触って。」とジーンズを膝まで下ろし、私の手首を物凄く強い力で掴み、手を下着の上に誘導して、「手を動かして触って」と命令してきました。その後、T が下着を下ろして男性器を出し、私の頭を両手でつかんで強い力で押さえつけ、無理やり口でくわえさせました。T は、「啜えたままこっち見て」といいました。T は、私の顔から 30 センチぐらいの距離でニヤニヤ笑っていました。私は、怖くて、頭が回らなくて、力が入らず動けなくなりました。T は、顔じゅう汗をかいていて、T の髪から私の顔に汗が落ち、目に入って痛かったことを覚えています。T は、「俺とゆうみの秘密ができたな」と言われました。

T は、私が動かないので私の頭を両手で掴み、強く上下に頭を動かし始めました。喉の奥が痛くて、息ができなくて、何度も吐きそうになりました。気持ち悪い。涙が止まりませんでした。「車を汚したくない。」と T がいい、T が私の口の中で射精しました。私は、ティッシュを 4~5 枚渡され、ティッシュに精液を吐き出しました。

どう車から下ろされたか覚えていませんが、ふらふらしながら砂利の上をヒールでゆっくり歩き、自分の車に戻りました。車の前で、鍵を探したが長い間見つかりませんでした。ふと気がつくと、T の車はもう無くなっていました。

その後、どう帰ったか覚えていません。家のお風呂でシャワーのお湯を流しっぱなしのまま、お風呂場で気を失い倒れていました。母が脱衣所から「ゆうみ？寝ちゃってない？大丈夫？」と話しかけてきて、その声で意識が戻りました。「大丈夫、起きてるよ」と起き上がりましたが、体がとても重たく感じました。

## 2.38. 平成 23 年 5 月 31 日（火） 診断：鬱状態

何時頃出社したか、覚えていません。私は、席に着いて気持ちが悪くなり、酷く気が遠くなっていく感覚があり、休憩室に移動しました。部屋の中に入った途端、力が抜けたてカーペットに落ちました。目が覚め、ぼんやりしながら iPhone で「レイプ」と検索した。

また気を失っていたようで目が覚めると、目の前で K が「ゆうみ？大丈夫？ M さん呼んでくる」といいました。意識がぼんやりして体に力が入らず動けませんでした。

M から、「病院に車で連れて行くからかかりつけ病院を教えて」と言われ、「行きつけは特にない。精神科（山本クリニック）を予約している。」と伝えました。M のピンクの軽自動車の後部座席で横になり、山本クリニックに搬送されました。M が、「連絡し今日診てもらえることになったよ」といいました。



病院に着くと、Mが問診票に記入しました。その後、私は、心理テストのような紙の質問に丸をつけ、受付近くの小さな部屋で事前カウンセリングを受けて、先生とのカウンセリングを受けました。セクハラやレイプについては、先に話した通り、誰に人事評価されているかわからないことや、その当時私は、人事部が昇進の決定等を司る部署だと思っており、事実を伝えれば私の社内評価が下がると考えていたため、人事部に所属するMが同行している病院では、医師に対して事実を伝えることはできませんでした。

先生に「診断結果を伝えたいが、Mも同席していいか」と聞かれ、Mも一緒にソファに座った。先生が「鬱状態なので会社を休んで下さい」と言った。私は、断片的な情報での診断は無効だと思いパニックになりました。「私は鬱じゃない。まだ働ける。仕事ができるようになりたいのに、うまくいかないだけ」と泣きながら訴えました。そのとき、会社の人事評価基準が頭をよぎり、泣きじゃくるこの状況は、Mから見ると減点対象になると思いました。八方ふさがり。精神的にも身体的にも動けない状況になっていました。

「今日はもう帰ったらいいよ。ゆっくり休んで。」とMにいわれました。私の車は会社に置きっ放しでしたが、翌朝はNが迎えに来てくれることになり、そのままMに家まで送ってもらいました。今後について考えようと思いましたが、その日も頭が回りませんでした。

## 2.39. 平成 23 年 6 月 1 日（水）人事面談

この日は、午前 8 時 30 分から 9 時 30 分頃までに N と出社しました。

その後、午後 1 時 30 分から 3 時ころまで、人事部（A・M）と社内会議室において、ミーティングを行いました。前日に私が社内で倒れ、病院へ搬送されたため、その聞き取りが行われました。そのミーティングで私は、体調不良の原因は、業務が忙しいことだと説明した。Mからどのように忙しいのか聞かれたため、「TのSkypeが多く仕事が進まない」、「深夜残業しても仕事が終わらない」と主張しました。「他に誰かに相談したか」と聞かれ、KとNには相談したことがある」と答えました。

その後、席に戻るとYが「倒れたことは既に『照屋限界説』として社内で噂になっている」といっていました。そのような噂を流しているのは、Oだということを聞いた私は、このままだと職を失ってしまうと思い、Oに面談をメールで申し込み、午後 3 時 15 分頃から面談をしてもらいました。そこでも、体調不良の原因は、TからのSkypeが多く、仕事が終わらない、深夜残業をしても仕事が終わらないという内容の話をしました。

そこで、○から「業務軽減としよう」という話があり、午後4時ころから、○が人事部のAとMを呼び、私の業務軽減が決定されました。

私は、Tから執拗にSkype等で連絡を取るよう言われていることについては、○、○、M、Aに言えたものの、肝心のレイプについて話すことはできませんでした。その理由は、社内におけるセクハラ相談窓口が不明だったため、誰に相談していいのかわからなかったこと、先の社内の評価基準のことが頭にあり、誰を信用して話をしてよいかかわからなかったこと、また自分自身混乱していて、どのように説明すればいいのかわからなかったからでした。

#### 2.40. 平成23年6月2日（木）配置転換と席替え

この日も、午前11時30分頃から午後1時30分頃まで、A及びMとの人事面談がありました。業務軽減という名目の、実質上「配置転換命令」があり、私は、○の管理下になりました。現顧客の引継しながら、新しい仕事を自主学習しないといけず精神的に負担でした。

○、A及びMから指示があり、午後5時ころに席替えがありました（末尾添付図面3-3）。しかし、私の席は、Tの向かい席から、Tのななめ前になっただけでした。

#### 2.41. 平成23年6月3日（金）9:30-10:00 家庭環境の確認

Mが私の母に電話をし、「優海さんは自宅での様子はどうですか？変わったところはありますか？」と聞いていました。母は「過重労働でいつも疲れているようです。家に帰るのは深夜で睡眠時間が不足しています。でも特に変わった様子もなく普通ですが。」と返事しました。

#### 2.42. 平成23年6月9日（木）～6月15日（水）T Skypeなし

TのSkypeが1週間ない（6/14～6/16はH・○と東京出張）過去、年末年始や祝祭日含めてもSkypeが1週間途切れたことは初めてでした。

#### 2.43. 平成23年7月1日（金）人事面談（M）@社内会議室

先月1日に行われた人事面談で決定した業務軽減期間が1か月間と設定されていたため、そのレビューを行うためにMとの面談が行われました。

具体的な日時については覚えていないが、6月1日から7月1日までの1か月間の間に何度かMとの面談があり、そこでTとのスカイプでのやり取りをMには見ても

らっていました。その上で私は、**T**の問題点について、業務外の話が長い、セクハラ発言が気持ち悪い、Skypeが多い、自分に不都合な Skype を消すなど伝えていました。

**M**からは、Skype 内のセクハラ発言について、「消されたら困るから、最初からの Skype をバックアップしておいて」との指示がありました。

このとき渡部は、**T**が社内でこのような騒ぎになるのは2回目と**O**から聞いている。平成21年3月は、女性社員の方が誘惑したと言い逃れて自主退職した。社内でも被害者が4、5人いた状態で、中堅の女性社員で事実を知っているほとんどが**T**の事を嫌っている。<sup>14</sup>しかし証拠がなく逃げられてしまった。今回は言い逃れできないようにしたいので協力してほしい。」と言っていました。私は、**T**が過去にも同じように社内でセクハラをしており、被害者が複数名いたこと、そしてそのことを中堅の社員はみんな知っていたことに驚き、とてもショックでした。

#### 2.44. 平成23年7月9日（土）全社員ミーティング

全社員でグループワークがありました。**A**、**M**がグループ分けを発表しました。**T**とのトラブルについて**A**に話しているにも関わらず、同じグループになっていました。約4時間の共同作業は精神的苦痛でした。



7月9日（土）全社員ミーティングでの座席配置

手前左が私、左奥のストライプシャツが**T**

(平成23年7月12日@うるま市 **L社** 本社 撮影者：**L社** 元社員)<sup>15</sup>

<sup>14</sup> 日記に「4～5人は被害者、中堅社員さんたちはみんな知ってて彼のことが嫌いっていうのに驚いた」との記載

<sup>15</sup> **L社** ブログ『さあやってきました!!1dayMTG(2Q)』を参照(執筆者：**K**)  
(<http://blog. .co.jp/8449.html>)

2.45. 平成 23 年 7 月 15 日（金）追走状況を説明（大平）

（ T 東京出張中 平成 23 年 7 月 12 日（火）～7 月 16 日（土））

私は、 O に、深夜の自宅追走について絵を描きながら説明し、「なぜ言わなかったのか」と怒られました。 O は、「 T は思った以上に確実だな。どう T に伝えるかは度合いの問題だけど、伝えるのは確実にだな」、「もし照屋が自分の娘だったら、小一時間は正座させる。もちろん向こうが悪いっていう大前提はあるんだけど、お前も悪い。なんでもっと早く言わなかったのか」といわれました。

2.46. 平成 23 年 7 月 19 日（火）頃 強姦状況の説明（ O ・ N ）

ビストロまいど屋 ナハスタイル（那覇市 東町 20-12、パチンコ店エムズガーデン裏）  
串角泉崎ロータリー店（沖縄県那覇市久米 1 丁目 1-1）

午後 8 時ごろから O ・ N と会食がありました。4 月 28 日、5 月 11 日及び 5 月 30 日頃（手淫や口淫を強要されたこと）の出来事について、泣きながら嗚咽交じりに詳細含め全てを話しました。

O には、「なんで車に乗ったのか。なんで今頃になって…」と責められました。 O は、「実は、平成 20 年に T 引継の東京出張同行した時、俺の携帯に警察から連絡がかかってきて、電車内の痴漢容疑で捕まった T を引き取りに行った。過去を知っていながら、営業部に入れる許可をしたのは俺だ。本当に申し訳なかった」と私に謝罪し、「男性だと話しにくいだろうから、 M にこの事を話してほしい」といいました。解散は深夜 4 時になっていました。私は、泣きつかれていたのに全く眠れませんでした。

2.47. 平成 23 年 7 月 20 日（水）強姦状況の説明渡部

O に言われた通り、午後 7 時から午後 11 時頃まで大会議室において、 M に対して、4 月 28 日、5 月 11 日及び 5 月 30 日頃の出来事を全てを話しました。「他に誰かに相談した？」と聞かれ、「前職で似たような事例の対応をしたことがある。同じ女性として、組織として、優海の悪いようには絶対にしない。力になれるか分からないけど任せて欲しい」といわれました。

翌日、 M から、「話してくれてありがとう、優海のことを思っている O さんと A さんのことを信じたらいいと思う」とメールがありました。

## 2.48. 平成 23 年 7 月 22 日（金）再度事情聴取（ M ）

M と社内会議室で会議があり、「26 日月曜日に T について役員会議で説明する。全てを資料に纏めたい。最初から最後まで、申し訳ないけどもう一度全体像を聞かせてほしい」と言われました。

M は、「レイプ」を話す私に対して、「殴られたわけでもないし、優海は暴れて逃げ出さなかった。挿入されていないからレイプではないよ。起訴できないのは同じ女性として残念だけど刑事事件ではない。」と断言されました。物理的な強制力を持ってわいせつな行為をされたのでなければレイプではないと断言され、今回の件は、犯罪には当たらず、法律にも違反しない、ただしセクハラ行為なので、就業規則に違反すると繰り返していました。

M は、何度説明しても理解してくれないようでした。「私のせい」で強姦がセクハラに軽減したと言われた気がして、私は悔しくて泣きました。M は、「でもこれはセクハラだし就業規則違反。会社の法律違反は重大問題。迅速に対応する。信用して」と、レイプではなくセクハラだと M は繰り返して私に言いました。<sup>16</sup>

「月曜に正式決定だが、T 解雇になると証拠提出が必要になってくる。」と言われ、私の言っていることが本当ではないと思われ信用されていないから証拠が必要なのかなと怖くなりました。

## 2.49. 平成 23 年 7 月 26 日（火）事実内容通知書の依頼（ M ）

この日は、午前中は精神科に通院したので、昼過ぎの出勤でした。

出勤後に M から、「役員会議で T を懲戒解雇とすることになった。『事実内容通知書』<sup>17</sup>という、懲戒解雇を通知するための書類を作るので日付を記入してほしい。8 月 1 日に T へ通達。それまでは書類作成を業務としてお願いしたい」と言われました。

「懲戒解雇通知するまでは、T さんに動きがバレないようにしてね。優海に物を投げたり殴り掛かったりされたら、会社としても優海を守りきれない。」「平成 21 年は女性社員が誘惑したと行為を正当化し、罪を認めず言い逃れた。東京での電車内で痴漢容疑で警察に捕まったときも、無実を主張していたらしい。そういう人は病気。今回は言い逃れできないようにしたい。会社からの書類だけでは不十分<sup>18</sup>で罪の重さが伝わ

<sup>16</sup> 会社の対応を振り返ると、事実内容通知書（会社文書）で「レイプ」と書けなかったので「レイプでなくセクハラ」と信じさせたのだと思う。

<sup>17</sup> 「懲戒解雇通知書」ではなかった。つまり初めから T が「懲戒解雇に値する」と事実を伝え替し、自主退職を選ばせる計画だったのだと思う。

<sup>18</sup> 万が一言い逃れした場合に追い討ちをかける材料として「私からのメッセージ」という手段に利用された。

らない可能性がある。優海から T に伝えたいメッセージをコメントのような形で纏めてほしい」と言われました。

強姦加害者へ、被害者の私から何を伝えろと言うのだろうと思い、正直、書きたくありませんでした。私は、混乱し、「少し考えさせてください」と伝え、会議は終わりました。

## 2.50. 平成 23 年 7 月 27 日（水） T へのメッセージ記入拒否

事実内容通知書の項目の説明をしたいと、 M に呼び出されました。私は、会議室や車の状況を思い出し気持ち悪くなり、「メッセージは何を書けばいいかわからないし書きたくない」と伝えました。

M は、「泣いてばかりでイヤイヤってただの 5 歳ぐらいの子どもじゃん。前髪切って幼く見えるし芦田愛菜みたい。これは全部優海のためだよ。悪いようにはしないから言う事を聞いて」と従うよう強く言われ怒られました。メッセージ記入を拒否するのは、幼い私の怠慢なのだろうか、劣等感と無力感でいっぱいでした。

M は、「性犯罪者は再犯率が高い。優海みたいな被害者をこれ以上出さないためにも、本人が罪を認め理解しないといけない」と繰り返していました。

## 2.51. 平成 23 年 7 月 28 日（木）証拠書類の返信

T へのメッセージは書きたくなかったので記入せず、事実内容通知書に日付だけ加え、Skype とメールデータも纏めて M 及び A と O に送信しました。M からの返信で、「コメントは書きますか?」とメール<sup>19</sup>で念押しがあり、何度も書く事を要求され、書く以外の選択肢はなくなりました。また、人事部に協力しないことにより、印象が悪くなるのも怖かったです。

T からの Skype は、この間もずっと続いていました。不審に思われまいよう振舞わないといけない、私が席にいないと怪しむかもしれない、T の目が届く範囲(斜め向かいの席)で、自分の表情に細心の注意を払っていました。

M に言われた、「会社としても優海を守りきれない」という言葉が頭で響いていました。T へのメッセージを書く目的は 2 つ。T に「あなたは犯罪者」と伝えつつ、報復を受けまいよう「自己弁護」すること。考えが纏まりませんでした。懲戒解雇の瞬間に T が読む、私からのメッセージということになります。T のプライドを傷つけ、怒り狂わせて攻撃対象になってしまうのは恐怖でした。恐怖と重圧とで潰れそうでした。

<sup>19</sup> 20110726-0729\_Re- 南斗クリニックに行ってきました。.pdf を参照

< T から攻撃対象にならないようにする対策例 >

- ・セクハラやパワハラを除く、業務指導の姿勢は感謝していたと伝える。
- ・あなたは善意での行動なのに耐えられずに、すいませんと伝える。
- ・断っているのが伝わらずエスカレートさせたのは私のせいです、すいませんと伝える。

・ T の存在や報復が怖い、これ以上関わらないで（攻撃しないで）と伝える。

M より、 T の狂気の可能性を話され、自分を守る手段として意に反して「自分が悪い」と書くのが屈辱的で悔しくて、でも怖くて苦しくて涙が出ました。「 T にバレないように」と M に言われていたので、顔を歪めず真顔で静かに泣きながら、パソコンに向かい続けていました。私の前後左右は外出のため空席だったので、唯一精神的に気が楽でした。

自分を責める気持ちが悪化し、「私にも落ち度があるから、他の人が巻き込まれないトラブルにあってしまったのかも」と卑下する瞬間があり、自分の人格や精神異常を何度も疑いました。自分が信じられなくなりました。

M に指示されたこの作業は精神的に大きな苦痛でセカンドレイプにあたると思えます。私にとって人生最悪の日でした。

## 2.52. 平成23年7月29日（金）メッセージの提出・解雇通達時状況の事前説明

「遅れてすいません、さっきメールしました」と M に連絡しました。時間切れで受付不可だといいのにと感じていましたが、「よく頑張ったね。優海の苦労は報われる。きっと T のためになる。」と M はいい、その場で一部添削され、M の指示に従って修正しました。「セクハラだからレイプって書くと語弊があるよね」と「レイプされた時」という箇所が「レイプされたわけじゃなく」と修正され、他にもいくつか M の指示によって書き直させられました。さっさと提出してこの苦痛なタスクを終わらせたかった。M の言う、「加害者のため」など正直どうでもよく、「自分のため」を考えると精一杯でした。

その後、M から懲戒解雇当日の流れの説明があった。

・8月1日、定時（18:30）過ぎの社員が帰宅し人が少ない時間を見計らって会議室に呼び出す

- ・役員3名と A は既に会議室で待機。 A が進行役。
- ・事実内容通知書と優海からのメッセージを証拠として提示する。
- ・記載項目を一つずつ読み上げながら、事実に間違いはないですね？と確認する。
- ・その日のうちでICカードや社員証を受け取り、荷物を纏めて出て行ってもらう。

…という流れと M が言った。「何をしでかすか、どう言い訳するか想定できない。取り乱して暴れて優海を刺そうとするかもしれない。何か予想できないことが起こったら、会社としても守りきれないから出社しないで自宅待機してて。もちろん、逆恨みして優海に危害が加わらないように慎重に対応する。」と伝えられました

## 2.53. 平成 23 年 8 月 1 日 (月) T 離職

私は、朝いつもの時間に家を出ました。

M からは、「自宅待機して」といわれていましたが、事情を知らない両親と居合わせるのは辛かったからでした。行く場所もなく、外で時間をつぶしました。今後は逆恨みで T に狙われるかもしれない、1人で外を安心して出歩けるのは今日が最後か…と怖くなりました。

後日、T の車種と車両ナンバーを M に教えてもらいました。

## 2.54. 平成 23 年 8 月 2 日 (火) T 離職の社内通達



全社員が見渡せるよう起立し輪になって行われる朝会<sup>20</sup>

午前 9 時ころ、朝会がありました。その他連絡事項という項目で、A より「T さんが個人的な家庭の事情で急遽辞めることとなり、今日から有給消化する形となる。有休消化が終わると家庭の事情で連絡がつかなくなる。案件がある人は期間に各自引き継ぐように。不都合があれば私まで連絡ください」と口頭でサラッと伝えられました。

<sup>20</sup> 左：2014 年 4 月 28 日@うるま市 L社 本社  
L社 ブログ『今日の一枚。』 執筆者： (http://blog. .co.jp/20188.html)  
右：2011 年 2 月 18 日@うるま市 L社 本社  
L社 ブログ『ネコ耳！？腕相撲！？チョコレート！？とある朝会』 執筆者：  
(http://blog. .co.jp/7737.html)



その後、M から呼び出され、T 解雇の時の T の様子が説明されました。

M は、「すべて予定通りに行われた。想定していたような暴れたり泣き叫んだりする事も特になく、今回は事実として全てを認めた。T も人間だし過ちを犯すこともある。『反省している』と罪を認めたので、会社として懲戒解雇という手段を使うのではなく、自主退職を選ぶ選択肢を与えた。自主退職を選んだので、今後は有休消化という形で、その間に業務や案件引き継ぎをしてもらうことになった。」と説明を受けました。

また、今後、T が私との電話、SNS、メール等の一切の接触をとらないことと引き換えに、会社は今回のことを公にしないことを約束し、私にも会社の一員としてこの約束を守る義務があると説明されました。M は、「裁判になると噂が広まるし、きっと優海も会社に居ずらくなる。ご両親に伝えてないんでしょう？優海も会社の一員として会社を守るために、今相談している数名以外、誰にもこの事は口外しないで。」「会社も精一杯プライバシーを守る配慮をする。優海のためを思っている。優海のことを心配。」とっていました。

役員会議で T を懲戒解雇に決まったと聞いていたのに、懲戒解雇ではなく自主退職となった事がショックで頭が真っ白になりました。

T は L 社 で事件は再犯。「罪から逃がさないため」に書いたメッセージははずなのに、会社は自主退職を選ばせ T を逃したと思いました。また、会社が勝手に、「私がレイプの件を口外しない義務」を生じさせる交渉を進めた事に驚きました。

私は、会社の外部（警察や裁判所など）にも話すべきかもしれないと考えていた<sup>21</sup>のですが、私が今後も会社に在籍し続けるためには、口外してはいけないという M の説明が恐ろしく感じました。

しかし、精神的に不安定で、会社の責任を擦りつけられていると気づけませんでした。私には、「二度とこういうことが無いようにしてください」と泣きながら訴えるしかありませんでした。M は、「時が解決してくれるから大丈夫」としていました。

SWAT 会議前「営業で何か聞いてないの？どうしたのかな、T さん急に。何か知らない？」と事情を知らない社員に聞かれました。営業の業務負担が増え、皆が T に対し文句を言っていました。T が辞め、役に立たない私が残ったことが重罪のようにも思えました。

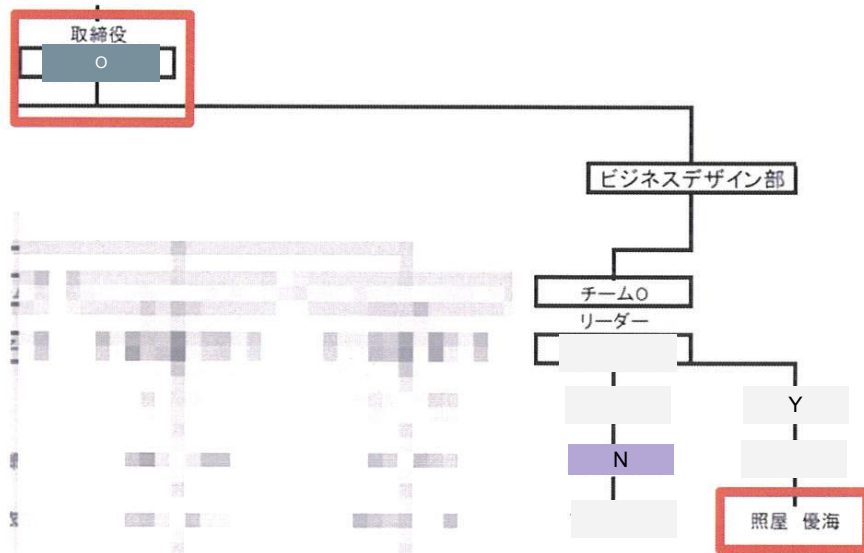
M や O に言われた「お前も悪い」というフレーズが何度も頭で繰り返されていました。

<sup>21</sup> M に「噂で会社に居ずらくなる」「会社の一員なら口外するな」「公にする=交渉決裂で T から報復」と察し、怖くなり人に話せなくなった。O・N・M に話もしている。

2.55. 平成 23 年 8 月 3 日（水）自責

精神的なダメージが強く、通勤が苦痛でした。何度も車を停車し吐き気と戦いながら、1 時間の通勤路を 2 時間以上かけて通いました。組織図代わりとなっていた緊急連絡網が更新され全社メールで流れました。

私は、**T** より先にそっと辞めなかった自分を責めていました。



(20110803\_ **L社** 緊急連絡網 2011. 8. 3. pdf 参照)

2.56. 平成 23 年 9 月 1 日（木）マーケティングへ人事異動

**T** 退社についての推測や噂が落ち着いた 1 ヶ月後、私の人事異動（営業からマーケティングへ）がありました。会社からは、プライバシーを守るための考慮だと言われていましたが、なぜ私が人事異動しないといけないのか、腑に落ちませんでした。しかし、会社への忠誠心を示さないと、病気のままあっさりと、退職するよう脅されるのではと恐れ、会社に忠実な人間にならないといけないという強迫観念に変わっていました。担当業務はアプリコンテスト運営事務局の全作業を 1 人で引受けること（退職社員の穴埋め）となり、業務負担と責任の大きさが重荷でした。

2.57. 平成23年10月7日（金）アプリコンテスト当日

大イベントを終え一気に脱力しました。1人で孤独と罪悪感を抱え込みながらの過重労働に疲れていました。やっと休職させてもらえと思いました。

2.58. 平成23年10月20日（木）～11月4日（金）有休消化休職<sup>22</sup>

セクハラ、パワハラによる「うつ状態」と言われていることもあり、会社に診断書を提出し休職しました。お金の心配をしていた私に、労災の説明など無く「有休消化という形はどう？」とMは言いました。労災になると会社に何か不都合があるのだと思います。セクハラの口外を口止めされて誰にも話せないこともあり、労災や傷病手当という選択肢を知ることはできませんでした。所有している有給を消化し、足りない日数は病欠とすることになりました。

2.59. 平成23年12月初旬

テレビニュースで「柔道金メダリスト内柴氏が解雇処分」という内容を見て、吐き気と脱力感でSWAT掃除(午前8時30分から午前9時30分まで)に出席できなくなりました。女子トイレでMと遭遇し、「口淫行為を強要されたなど、自分と重ねてしまう部分があり、レイプの報道内容が精神的に辛い」と泣きながら相談しました。

そこでもMから、「優海のケースはレイプではなくセクハラ。」といわれました。「セクハラの傷は癒えるまで時間がかかる。労働局セクハラ対策指導員の女性に相談してみても」とMがいい、日程調整がありました。

口止めされている一方で相談を勧めるMの行動の矛盾が理解できず、口止めが機能しているかを確認するための、私を試しているテストなのかとも思いました。

2.60. 平成23年12月22日（木） 労働局セクハラ対策指導員と面談 @那覇第2地方合同庁舎1号館3階

「沖縄県労働局 雇用均等室 セクシャルハラスメント対策指導員 〇〇〇さん」

那覇第2地方合同庁舎の一室で面談。指導員の立ち位置（会社側なのか私側なのか）が分からず、何を相談に来たのかと混乱していました。

口外を止められていたため、性的接触やレイプの部分は話せませんでした。帰りにももらった「セクハラ防止パンフレット」を見ながら、私はセクハラではなくレイプだったのでとは思いましたが、誰にも話すことが出来ませんでした。Mの言うように、「自

<sup>22</sup> 平成23年10月19日に「休職願」を提出し10月20日から休職。Aから「理由：療養のため」と書くよう指示あり。

分の中だけにとどめ、時間が解決してくれる」のを期待し、自然と忘れるのを待つしかないのかもしれない、レイプを話せない通院は意味がないと思いました。このころ、精神科通院をやめました。

## 2. 61. 平成 24 年 5 月中旬

**N** から「**T** さんが元レキサス社員の結婚式に普通に来て、楽しそうにしているところを見た。その場に役員も暁さんもいたのに、**H** さんと普通に話ししていたのに驚いた。**T** さんは今那覇市内の IT 企業で働いているらしい」と聞きました。また、この当時の私の上司であった **B** さんが社内で受けたセクハラについて、会社に訴えているところを目の当たりにし、私がされたセクハラやレイプのことを思い出し、再び体調が悪化し、精神科通院が必要になりました。

## 3. 時系列がわからない事項

・ **M** から「平成 23 年の 6 月か 7 月だったと思う。いつだったか覚えていないが、**○** さんに 6 階タバコスペースに呼び出されたことがある。『最近 **○** に何か言われたことはないか』と言われた。その前日ぐらいに **○** さんから Skype があって『ゆうみの体調が心配。彼女は大丈夫か。何か聞いていないか。』と言われた。**○** さんと Skypeしたのはその時が初めてぐらいだったから印象的だった。**○** さんにその話をする『ありがとう、それ聞いただけで十分』と言われた」という話を聞きました。

## 4. 1. おわりに

陳述書を書くにあたって、記憶だけでは時間軸がバラバラだったため、昔のノートや給与明細、勤務表、日報、手帳やメモ、写真、会社ブログ、メールやセクハラ Skype など封印していた情報を全部読み返して少しずつ思い出していきました。過去に遡り説明すること、記憶を文字にする作業は思った以上に辛かったです。会社からの口止めを 5 年間ずっと守ってきたにも関わらず、今回レイプについて話すべきだと思った理由はいくつかあります。

### ① 29 歳という現在の年齢、時間の経過

当時 23 歳～24 歳という大学卒業直後で、社会で働く経験がなかったがあれから約 5 年経ちます。当時の会社の対応にはずっと疑問と違和感を持っていました。30 歳を手前にした今、やっと当時のことを話す覚悟ができるようになってきました。

### ② **B** (元上司) の懲戒解雇

B (元上司) が男性社員から受けたセクハラを人事に訴えていた内容に対し、社長の H に「実害 (レイプ) が無いんだからいいじゃない。美男子だったらセクハラにならないでしょ」と言われたと聞いて、ショックでした。私が最初に T について相談した時を思い出しました。大量の Skype や性的発言、休祝日問わずの連絡、深夜の電話などは問題視されず、レイプの話をするまで迅速適正に対応してもらえませんでした。B は、私を含め立場の弱い女性社員をセクハラから守ってくれていたのですが、一連の行動が会社に楯突いた (レイプじゃないのにセクハラと騒いだ) として H に憎まれ、最終的に B は解雇されました。セクハラ再発防止対策がなされていない状況や、会社の隠蔽体質に恐怖と怒りを感じました。

### ③会社の「社員を守る」という嘘

私自身も平成 27 年 7 月、不当な懲戒解雇を突きつけられたことで、会社が T と交わしたという「交換条件」である「事件を公にしない」を守る必要性に疑問を持ちました。

不当解雇は、「優海のため」と言われたが、会社が「優海のため」として行うことが、私のためになったことは一度もありませんでした。会社は社員 (特に女性社員) を守ってくれない、信じてくれない。私がもし、役員や人事の目の前で犯されそうになっている状況でもきっと助けてくれない。自分の身は自分で守らないといけないと思ったとき、警察や裁判所に話そうと思いました。

### ⑤うるま市の強姦暴行殺人事件

私が T の車に閉じ込められた現場周辺の洲崎地区は 5 年前から変わらず、夜は人を車に閉じ込めるのに適した危険地帯のままです。照明は 5 年前より少し増えたものの暗い死角が多く、津梁パークで働く従業員が帰宅した後は、交通量もほぼない人目のつかない田舎道となります。

平成 28 年 5 月にうるま市で起きた強姦殺人事件を聞いて怖くなりました。あの場所での強姦被害者は何十名もいるかもしれない。あの日あの場で殺されていたのは私だったかもしれない。このまま黙ってはいけないと強く思いました。



**T** が車を停めた現場からの景色（撮影：2015年10月 ©2016 Google）  
末尾添付図面 1-2

現場は通勤で毎日見ていたので慣れており、今は景色を見ることは平気になりました。しかし、今もなお、男性不信、身体的接触に対する強い拒否感、性的な行為への違和感や嫌悪感、梅雨前後の湿度が高い駐車場で吐き気、玄関のインターホンが怖かったり、目眩で車が運転できず、同じ夢を繰り返し見るため精神科の処方薬なしでは眠ることすらできなくなりました。

悲しませることになるので両親にはまだ説明できないでいるし、これを書いている今でさえ、全て私の被害妄想、勘違いや虚言だと思われぬ不安で、文字数が多くなってしまう。精神的後遺症との戦いは最近酷くなっていて、半年で体重は10キロ近く落ちました。それでも、**L社** から口外を禁止され、セカンドレイプを受け続けた5年間の辛さよりましだと思います。全容を話すことを覚悟してから、やっと過去が現在とつながってきたように感じています。

**T** が再入社したせいで、上司になったせいで、Skypeが業務に使われていたせいで、レイプがあったせいで、セクハラ対策体制が整ってなかったせいで、またそれを**L社** が隠蔽し、今なお隠蔽し続けていることで、私は平成23年からずっと過去の出来事の中に精神を患いながら生きてきました。「問題は時間が解決してくれる。どんな嫌なことも人間は忘れていく」と**M** はいいましたが、それは違います。問題の先延ばしでしかありませんでした。**M** は、会社と自分の立場を守るために、私に「**T** への

セージ」を書かせ、**T**を会社に近づけないよう脅す材料とし、一方で私を「噂」や「**T**との交渉」、「話せば仕事を失う」と脅し口封じをしたのでした。

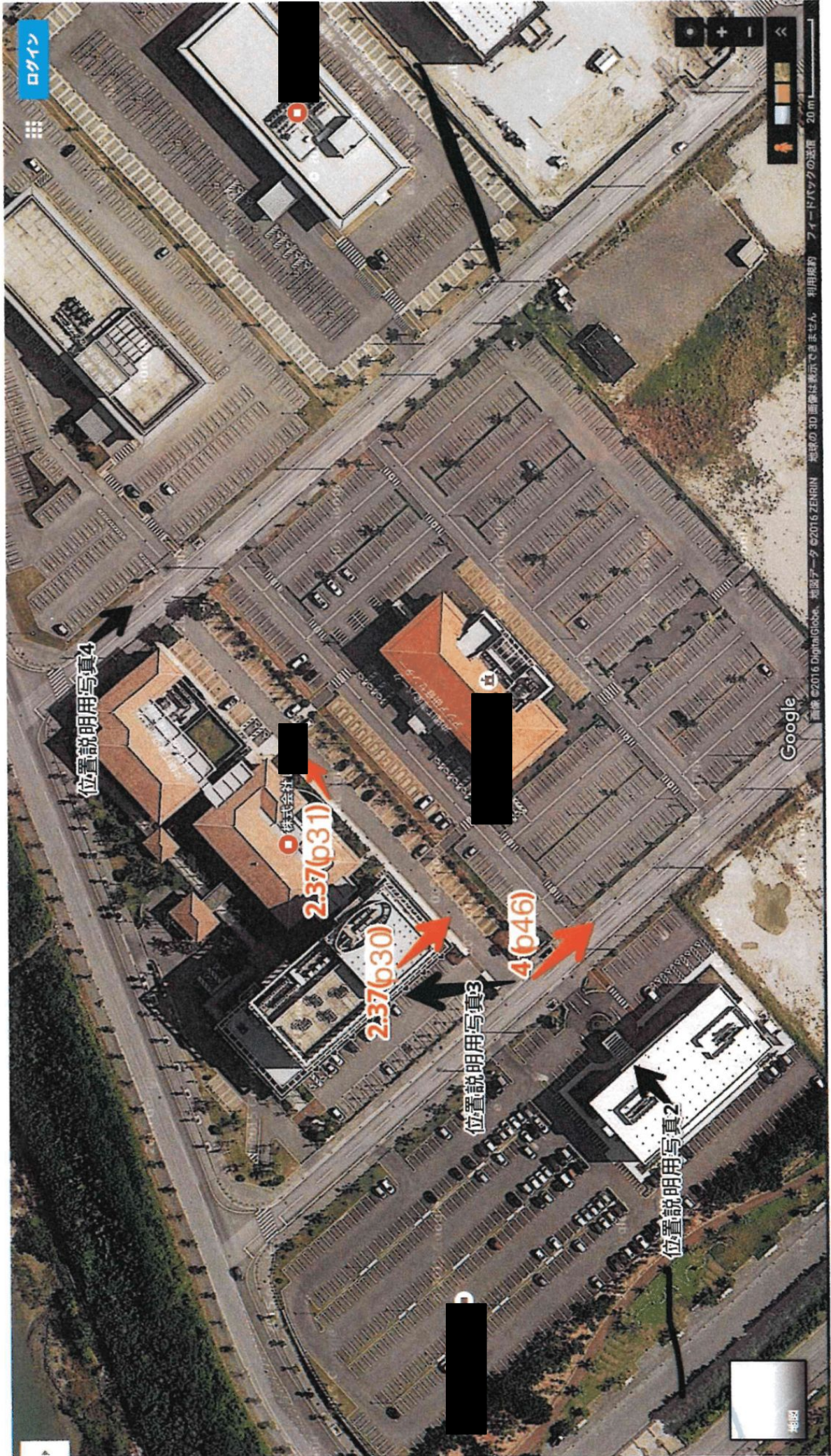
**T**は、平成23年ですら再犯で、態様（セクハラ・職務上の地位乱用・ストーキング・支配的立場の優越・レイプ）の異常性を私は知っています。支配欲、自分をコントロール出来ない独占欲、業務指導と人格矯正を混同した教育観。役職を持ち女性部下に指導する立場にあれば欲を止められないはずで、平成23年に得た経験値で更なる自己防御を防壁としているので非常に危険だと思います。声が挙げられない被害者が何人いるのだろうかと思います。

また、もし事件後、人事が正しい対応をし、一連の事件を会社から口止めされていなかったら、私は、間違いなく通報・もしくは裁判する事を選択しました。当時は、**M**の言葉で怖くなり、全体像と向き合う事ができず、心に蓋をして5年間ずっと話せませんでした。きっといつか…と思い、当時混乱した頭で思いつく限りの証拠を手元に保管していました。

私は車の中で叫ばず、事件を口外せず黙り続けてきました。だから恨まれず、殺されることもなかったし、それが自分の身を守る最善策だと自身に思い込ませて生きてきました。しかし、5年経って気がついたのは、「私は死なないために、生きているんじゃない」という事です。失われた時間に対する恨みはあるものの、**T**や **被控訴会社 L** に対して「同じ辛い思いをさせてやりたい」という復讐の気持ちは微塵もありません。私のように辛い思いをする人がいない社会になるよう、法を司る人たちの力を借り、裁判所に過去の出来事を判定してほしいと願っています。

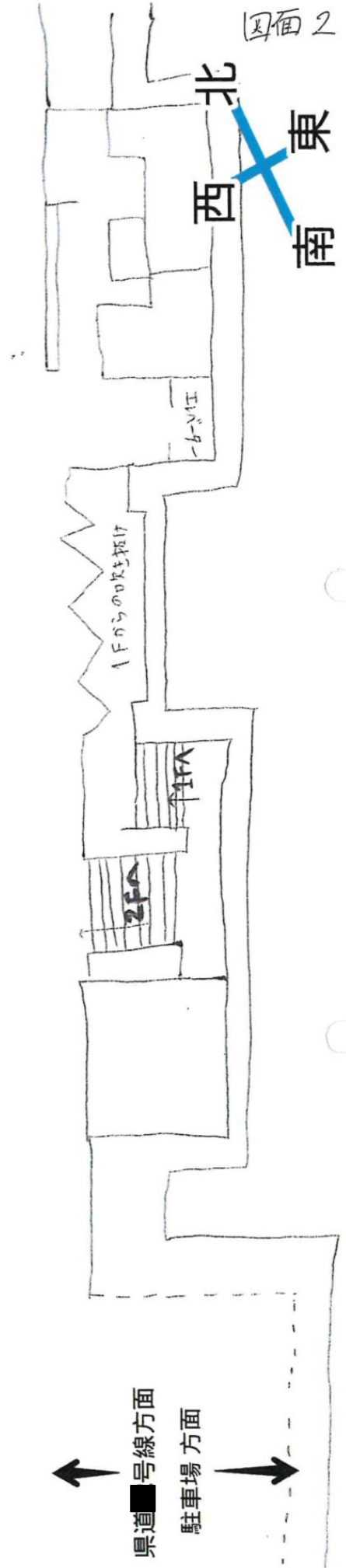
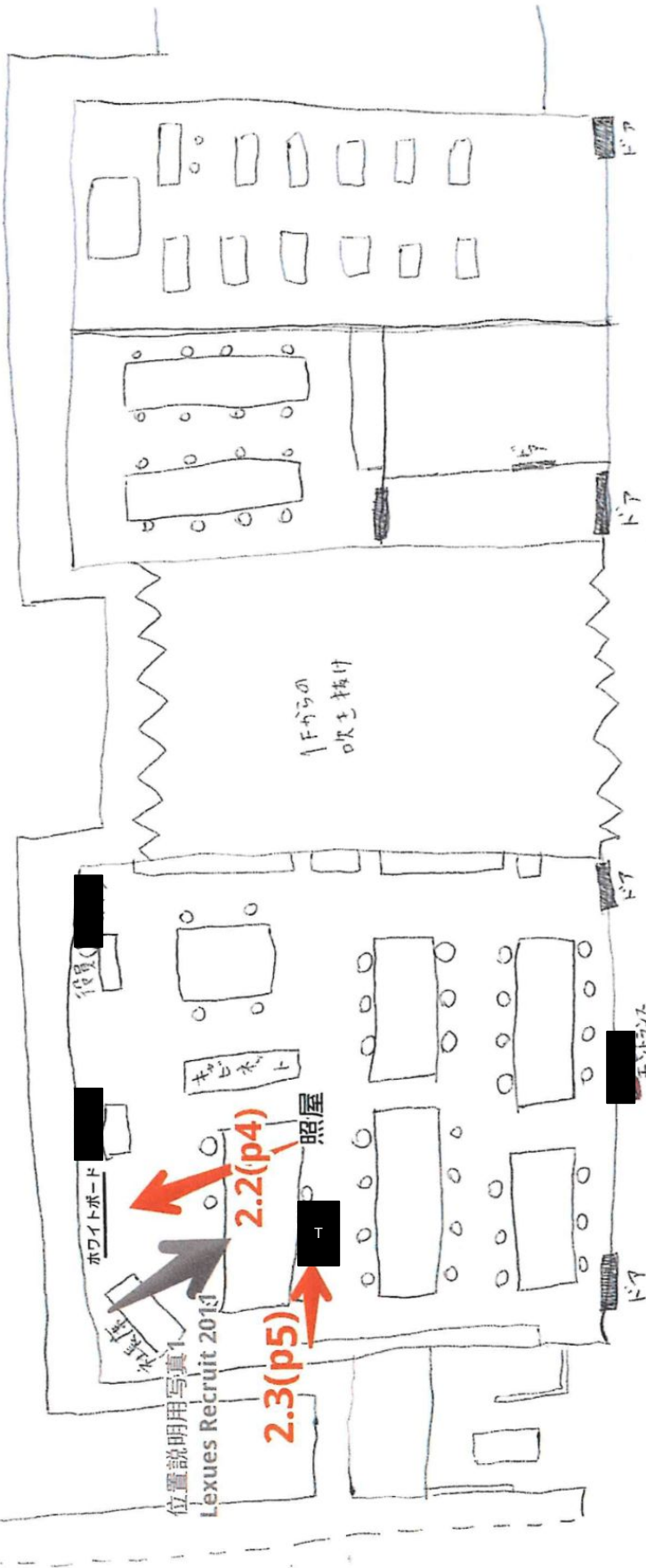
2016年8月24日

照屋 優海 



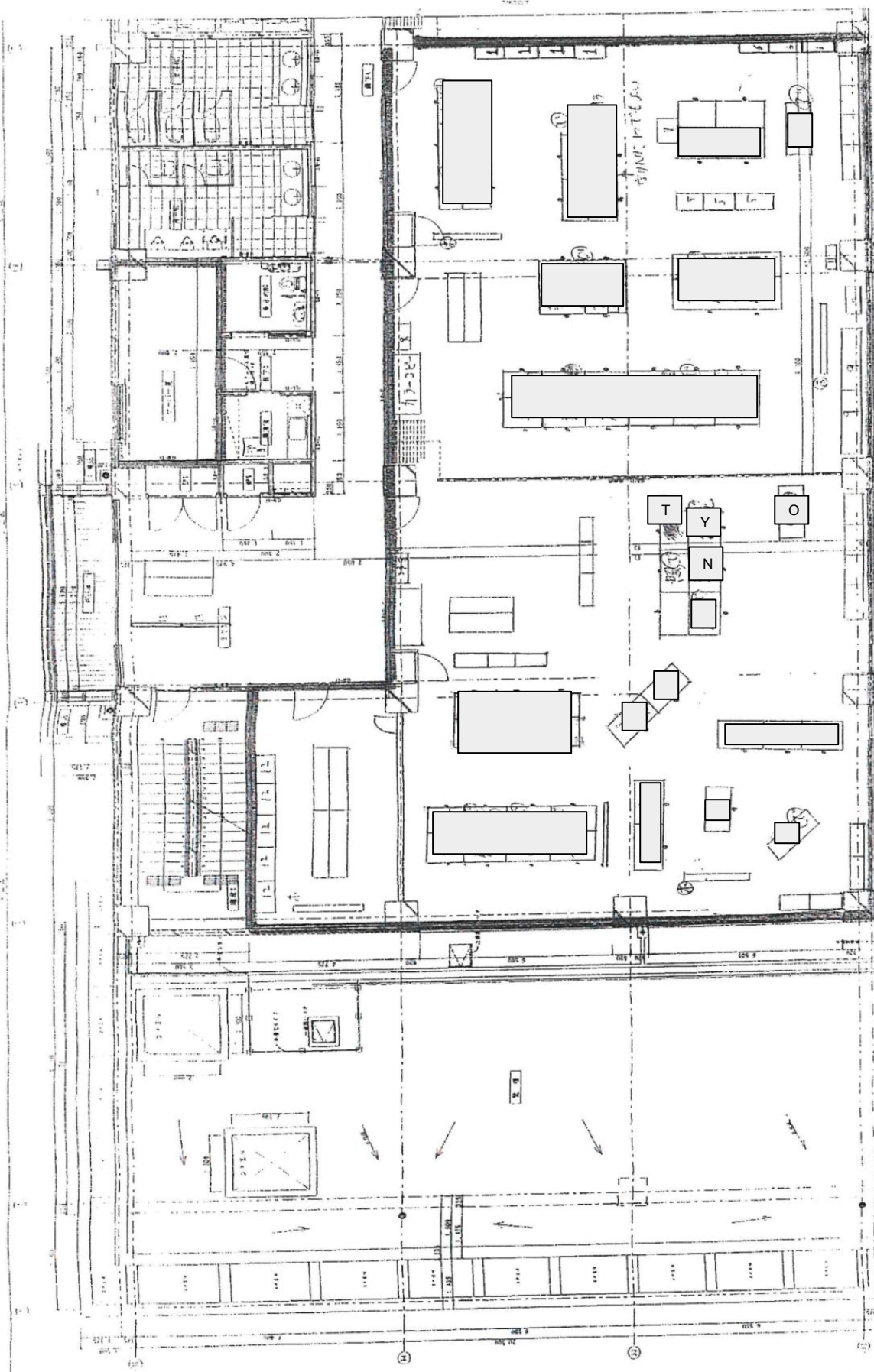


うるま市州崎IT津梁パーク  
A棟 座席 (平成22年10月1日から16日)



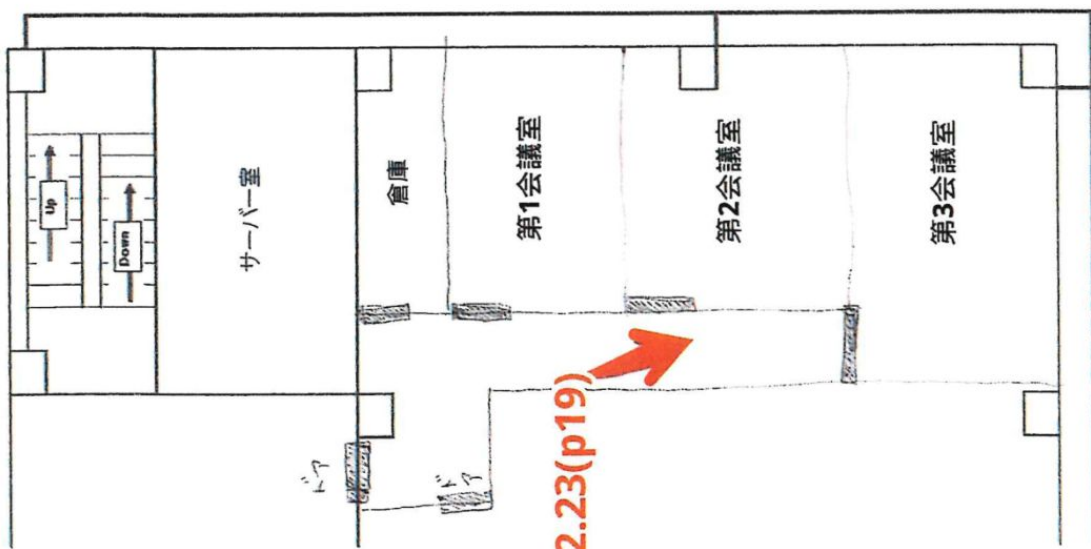
図面2

p16



図面番号	3-1
図名	3階平面図
縮尺	1/50
作成者	〇〇〇
承認者	〇〇〇
作成日	〇〇/〇〇/〇〇
承認日	〇〇/〇〇/〇〇

手書き部分は平成23年3月31日現在に完成。



2.23(p19)

■IT棟東バーク8棟5F 平面図

